財団法人 日本ハンドボール協会編　平成24年 5月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻527号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

特集

2012ロンドン五輪世界最終予選（男子）
第36回日本リーグ
第35回全国高校選抜大会

MAY. 2012・No. 527

［表紙写真：第36回日本リーグプレーオフMVP・末松誠選手・大同特殊鋼（左）・藤間かおり選手・オムロン（右）］

財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

第36回 日本ハンドボールリーグを終えて

日本ハンドボールリーグ委員長　**高村 誠一**

第36回日本ハンドボールリーグが3月10日、11日のプレーオフで終了しました。

プレーオフ決勝には大変お忙しい中、森喜朗元首相、竹田恒和JOC会長にもご観戦いただき、誠にありがとうございました。また元ハンドボール選手（U -16強化指定選手）の真崎ゆかさんによる国歌斉唱が、熱戦の前の厳粛な雰囲気を一層引き立たせ、会場満員（決勝入場者数3,127名）のハンドボールファンと一緒に、年度を締めくくるにふさわしい最高潮の盛り上がりになりました。

また、今回初の試みとしてプレーオフの前座として日本リーグジュニアカップ優勝決定戦を開催いたしました。リーグ加盟チームが地元で指導している小学生を東西に分け、リーグ戦を行い、プレーオフの場で東西の優勝チームが対戦しチャンピオンを決めるというものです。この目的は、将来の日本リーグ選手、日本代表選手になるであろう少年少女ハンドボーラーに夢と希望を与えようというもので、日本リーグの理念に則った事業です。栄えある第一回チャンピオンは男女とも沖縄・琉球コラソンジュニアに決定しました。子供達のひたむきに一生懸命プレーする姿に感動し、そのレベルの高さに驚くとともに、遠方から応援に駆け付けてくださった保護者の熱心な声援は、親子の絆を再確認するものであり心和むひと時でした。今後様々な課題を改善しながら、充実させていきたいと考えています。

さて、プレーオフの結果につきましては、女子はオムロン（レギュラーシーズン２位）が北國銀行（同１位）を18-15で下し、３年ぶり15度目の優勝。男子は大同特殊鋼（レギュラーシーズン３位）が大崎電気（同１位）を第一延長の末36-32で破り、２年ぶり15度目の優勝を果たしました。素晴らしい熱戦を繰り広げてくれた各チームに、心から拍手を送りたいと思います。

レギュラーシーズンを振返ってみますと、男女とも各チームの力が拮抗しつつあり、最後の最後までプレーオフ出場チームあるいは順位がわからないといった、非常に白熱したレギュラーシーズンとなりました。上位チームの力が接近し、シビアな戦いによってお互いに切磋琢磨することは、競技力向上に大きく貢献するものであり、大いに歓迎するところであります。

今リーグでも各種の記録が生まれましたが、中でも特筆すべきは、ハンドボール界未踏の大記録である1200得点を達成したソニーセミコンダクタの田中美音子選手の活躍です。田中選手のたゆまぬ努力に対し敬意を表するとともに、更なる記録更新に期待したいと思います。

また、各チームともロンドン五輪予選の関係で過密なスケジュールの中、全国各地で熱戦を繰り広げると同時に、現地の子供達へのハンドボール教室なども実施し、地域貢献に積極的に協力していただきました。リーグ委員会として各チームのご理解とご協力に対し感謝申し上げます。

最後に、全国各地の試合会場に足を運んでくださったファンの皆様、リーグ開催にあたりご尽力くださった各都道府県協会関係者、各連盟関係者、開催地責任者の皆様、素晴らしいハンドボールを披露してくださった各チームの選手ならびに関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

2012ロンドンオリンピック IHF世界最終予選 男子

日本はロンドンオリンピック出場ならず

2012ロンドンオリンピックIHF世界最終予選（男子）が、2012年4月6日（金）～8日（日）の期間、スペイン（アラカント Alicante）、スウェーデン（ヨーテボリ Gothenburg）、クロアチア（ヴァラジュディン Varazdin）にて行われた。
12ヵ国が3グループに分かれ、各グループでリーグ戦（総当たり）を行い、各グループ上位2ヵ国が、ロンドンオリンピック出場権を獲得した。

ロンドンオリンピック男子出場決定12ヶ国：オリンピック開催国（イギリス）、2011年世界選手権1位（フランス）、各大陸代表（アジア：韓国）、（パンアメリカ：アルゼンチン）、（アフリカ：チュニジア）、（ヨーロッパ：デンマーク）、世界最終予選（スペイン・セルビア・スウェーデン・ハンガリー・クロアチア・アイスランド）

日本戦 戦評

■1日目：4月6日（金）

日　本　22（14-16，8-20）36　クロアチア

2012ロンドンオリンピックIHF世界最終予選初戦は地元のクロアチアとの対戦。

立ち上がり、体格で勝るクロアチアに対し攻撃でリズムをつかむことができず細かいミスを速攻につなげれ失点し、2分過ぎまでに3対9とリードされる。しかし、野村の7mTをきっかけに流れをつかむと、GK松村のセーブも増え、小澤らの速攻で加点。さらに岸川・永島らの得点で8対12と4点差まで詰める。その後も武田・富田・永島を中心としたDFが踏ん張りを見せ、門山らの速攻もあり、前半を14対16で折り返す。

後半、日本は前半終了間際の退場のため約1分間、一人少ない状況。このピンチを何とかしのぎたい日本だが、2分過ぎにまたも退場者を出してしまい約3分間も一人少ない状態が続く。この間に角度の広いサイドにボールを集められ14対19とリードを広げられてしまう。追い上げたい日本だが攻撃が単調になり、シュートブロックされることが増え、18分までに17対28とリードを広げられてしまう。15分過ぎから東長濱秀作をコートに送り出し、連続得点などで流れを変えようとするが、時間が足りず22対36で試合終了。

得点：宮﨑；4点、野村・門山・東長濱秀作；3点、小澤・豊田・永島；2点、高智・岸川・富田；1点

■2日目：4月7日（土）

日　本　30（11-20，19-21）41　アイスランド

2012ロンドンオリンピックIHF世界最終予選の第2戦はアイスランド。この試合に勝利し、ロンドンオリンピック出場への望みをつなげたかったが、10分で3対8になる。さらにポストにボールを集められ17分までに6対14とリードされてしまう。悪い流れを断ち切りたい日本は、GK甲斐の7mTセーブ、松村のノーマークシュートのセーブから海道・東長濱秀作・富田・宮﨑らの連続得点で10対15とするが、良い流れを持続できず失点が増え前半を11対20で折り返す。

後半、高智のフィジカルを活かしたカットイン、宮﨑の個人技、門山のミドルなどで加点するが前半のビハインドがひびき、30対41で試合終了。

この敗戦によりロンドンオリンピック出場の道が閉ざされた。

得点：高智・宮﨑；6点、門山；5点、小澤・東長濱秀作；3点、豊田・富田；2点、岸川・海道・野村；1点

■最終日：4月8日（日）

日　本　33（14-9，19-17）26　チ　リ

2012ロンドンオリンピックIHF世界最終予選最終戦はチリ。

オリンピック出場の目標は断たれたものの、最終戦を勝利して帰国したい日本は立ち上がりから積極的な攻撃で10分過ぎまでに9対2とリードする。GK甲斐が高い集中力を見せ、好セーブを連発。そのセーブからベテラン永島の速攻などで加点し、前半を14対9で折り返す。

後半も末松のパスカットからの速攻や富田のシュートブロックから豊田の速攻などで10分過ぎまでに22対15とリードを広げる。その後も、GK甲斐のセーブから藤田の目の覚めるようなミドルシュートなどで加点し、33対26で勝利した。

得点：末松・宮﨑；5点、豊田；4点、岸川・富田・東長濱秀希・門山；3点、武田・藤田；2点、永島・海道・東長濱秀作；1点

■選手団名簿

役職	氏名	ふりがな	所属
団　長	川上　憲太	かわかみ　けんた	（財）日本ハンドボール協会
副団長	西窪　勝広	にしくぼ　かつひろ	（財）日本ハンドボール協会
監　督	酒巻　清治	さかまき　きよはる	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	中山　剛	なかやま　つよし	（財）日本ハンドボール協会
ドクター	沖本　信和	おきもと　のぶかず	沖本クリニック
トレーナー	赤尾　和彦	あかお　かずひこ	（株）ＴＦＡカンパニー
分　析	舎利弗　学	とどろき　まなぶ	（財）日本ハンドボール協会
総　務	近藤　恒俊	こんどう　ひさとし	（財）日本ハンドボール協会

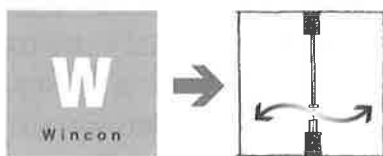
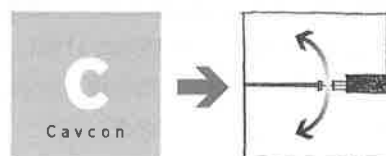
No.	背番号	名前	ふりがな	所属	生年月日	身長	体重	出身校	国際試合	
									試合数	得点
1	1	篠内（浦和）＊克行	しのうち（うらわ）　かつゆき	大崎電気	1982. 02. 03	177	78	日本体育大学	31	0
2	3	小澤　広太	おざわ　こうた	大崎電気	1985. 12. 09	170	73	法政大学	15	58
3	4	末松　誠	すえまつ　まこと	大同特殊鋼	1982. 03. 19	178	79	国士舘大学	73	291
4	5	高智　海吏	こうち　かいり	トヨタ車体	1985. 01. 22	186	90	大阪体育大学	25	60
5	6	豊田　賢治	とよだ　けんじ	大崎電気	1979. 12. 24	181	78	国士舘大学	84	359
6	7	宮﨑　大輔	みやざき　だいすけ	大崎電気	1981. 06. 06	173	75	日本体育大学	103	495
7	8	武田　享	たけだ　とおる	大同特殊鋼	1982. 09. 17	191	88	国士舘大学	64	74
8	9	永島　英明	ながしま　ひであき	大崎電気	1977. 03. 24	189	95	大阪体育大学	98	85
9	10	岸川　英誉	きしがわ　ひでのり	大同特殊鋼	1984. 10. 28	188	92	早稲田大学	53	77
10	11	海道　衛秀	かいどう　もりひで	トヨタ紡織九州	1984. 07. 14	174	70	筑波大学	31	34
11	12	甲斐　昭人	かい　あきひと	トヨタ車体	1987. 04. 29	184	90	日本体育大学	22	0
12	13	富田　恭介	とみた　きょうすけ	トヨタ車体	1983. 11. 11	190	91	中部大学	59	113
13	14	藤田　聖史	ふじた　さとし	トヨタ車体	1982. 12. 24	189	99	中部大学	19	18
14	16	松村　昌幸	まつむら　まさゆき	湧永製薬	1978. 12. 13	188	90	福岡大学	46	0
15	18	野村　喜亮	のむら　よしあき	大同特殊鋼	1987. 01. 22	186	84	早稲田大学	39	100
16	20	東長濱　秀希	ひがしながはま　ほずき	大崎電気	1987. 11. 21	188	93	日本体育大学	21	30
17	22	門山　哲也	かどやま　てつや	トヨタ車体	1983. 10. 22	186	92	日本大学	79	267
18	23	東長濱　秀作	ひがしながはま　しゅうさく	湧永製薬	1984. 02. 03	185	84	日本体育大学	53	110

＊１番篠内は、国内においては旧姓の浦和としているが、海外では身分確認もありパスポート記載名とする。

■星取り表

	トーナメント1	ESP	SRB	POL	ALG	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	スペイン（ESP）		30 ○ 27	33 ○ 22	28 ○ 20	3	3-0-0	91	69	22	6
2位	セルビア（SRB）	27 ● 30		25 △ 25	26 ○ 18	3	1-1-1	78	73	5	3
3位	ポーランド（POL）	22 ● 33	25 △ 25		28 ○ 27	3	1-1-1	75	85	-10	3
4位	アルジェリア（ALG）	20 ● 28	18 ● 26	27 ● 28		3	0-0-3	65	82	-17	0

	トーナメント2	SWE	HUN	BRA	MKD	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	スウェーデン（SWE）		26 ○ 23	25 ○ 20	27 ○ 23	3	3-0-0	78	66	12	6
2位	ハンガリー（HUN）	23 ● 26		29 ○ 27	28 ○ 26	3	2-0-1	80	79	1	4
3位	ブラジル（BRA）	20 ● 25	27 ● 29		28 ○ 27	3	1-0-2	75	81	-6	2
4位	マケドニア（MKD）	23 ● 27	26 ● 28	27 ● 28		3	0-0-3	76	83	-7	0

	トーナメント3	CRO	ISL	JPN	CHI	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	クロアチア（CRO）		31 ○ 28	36 ○ 22	35 ○ 15	3	3-0-0	102	65	37	6
2位	アイスランド（ISL）	28 ● 31		41 ○ 30	25 ○ 17	3	2-0-1	94	78	16	4
3位	**日本（JPN）**	22 ● 36	30 ● 41		33 ○ 26	3	1-0-2	85	103	-18	2
4位	チリ（CHI）	15 ● 35	17 ● 25	26 ● 33		3	0-0-3	58	93	-35	0

第36回
日本ハンドボールリーグ プレーオフ

男子：大同特殊鋼が２年ぶり15回目の優勝！
女子：オムロンが３年ぶり15回目の優勝！

日本リーグを終えて

日本ハンドボールリーグ機構GM　家永 昌樹

今シーズンはオリンピック予選の日程の関係で、例年より２か月短い日程での開催となり、開催地ならびにチームの方々には多大なるご負担をおかけ致しましたが、関係各位のご協力により男子は大同特殊鋼、女子はオムロンの優勝でシーズンを終えることができました。

日本リーグ全体としては、４月にオーナー懇談会、６月にコーチ研修会、７月に開催地・GM合同研修会、GM会議、審判研修会を行いました。開催地・GM合同研修会には毎年全開催地の責任者の方々にお集まりいただき、研修を通じて各開催地の運営に活かしていただいております。その甲斐あってか、各地で特色のある大会が増えてきており、来場いただいたお客様にも好評を得ています。

また、熊本県の2,700人をはじめ、宮崎県小林市、福岡県は毎年1,000人を超えるお客様を集めていただきました。

残念ながら、全体平均では昨年の観客数には及びませんでしたが、なでしこリーグを除いた他競技が軒並み観客数の大幅減の中、開催各地の皆様のご尽力の賜物と感謝しております。

一方、コーチ研修会では、日本のトップリーグの指導者として、人間形成や、メディアトレーニング等日本のトップ指導者として研修を積んでチーム力向上に取り組んでいます。

審判研修会では、国内のトップレフェリーがに対して、より質の高い研修を積んでいただいております。ハンドボールの話だけでなく、今年はサッカー協会より西村雄一国際審判（W杯参加）のお話や、外部講師によるモチベーショントレーニングを行いました。強化と審判は両輪でなければならないとの方針のもと、審判もトップリーグにふさわしい研修を積んでいます。

今年度初めてJHLジュニアカップを東西に分けて開催いたしました。トップチームが普段指導しているチームである、トップチームのジュニアチームが集まりリーグ戦を８月に行いました。特に東の大会では、参加全チームがトップチームと全く同じユニフォームで参加しました。これはトップチームのオーナーの方々が大会の趣旨をご理解いただいた結果です。参加した子供たちは憧れのユニフォームに袖を通し、はつらつとしたプレーを見せてくれていました。近い将来、この中から１人でも多くの日本リーグプレーヤーが誕生してくれるものと信じております。なお、東西の１位チーム同士がプレーオフ決勝日に、プレーオフと同じコートで対戦し、男女とも琉球コラソンジュニアが優勝しました。

レギュラーシーズンは、最終日まで出場チーム、順位が決まらないほどチーム力が接近した状態でした。このような厳しいシーズンが毎年続き、接戦が増えれば日本代表の強化にもつながると確信しております。

プレーオフは毎年多くのお客様にご来場をいただいており、今年も決勝は3,000人を超えるお客様に観戦いただきました。今年の国歌斉唱には、元U-16強化選手で現在プロ歌手として活動されている真崎ゆかさんに歌っていただきました。さらにハーフタイムではハローキティーが登場、昨年東日本大震災で販売できなかったハローキティーグッズの販売に花を添えてくれました。

その他、ここ数年お客様の年齢・性別が大きく変わってきており、授乳室やおむつ交換室を設置したり、ベビーカーのお預かりを行うなど、今までにない取り組みを行い、多くの方々にご利用いただきました。このようなお客様の変化も、各開催地でのPR活動の工夫やハンドボールOB、OGの方々の掘り起こしのおかげだと併せて感謝申し上げます。

最終結果は、男子はレギュラーシーズン３位から勝ち上がって大同特殊鋼が、女子はレギュラーシーズン２位から勝ち上がったオムロンが優勝しました。この結果をみても男女ともチーム力が接近しており、次年度も激しく楽しみな試合を展開してくれると思います。

第37回大会よりセントラル自動車を新たに仲間に迎え、男子９チーム、女子６チームでの熱戦を展開して参ります。今シーズンも是非一人でも多くの方に会場に足を運んでいただき、またハンドボールを知らないお友達を会場にお誘いいただき、日本リーグを盛り上げていただきたいと思います。

最後にスポンサー各社様、開催地の方々、チーム保有の会社の皆様、チームのファンクラブの皆様の力強いサポートをいただきましたことに深く感謝申し上げると共に、今シーズンも変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。

男子優勝：大同特殊鋼

大同特殊鋼ハンドボール部監督・清水 博之

はじめに、皆様ご存知の通りプレーオフ決勝が開催された３月11日は、東日本大震災が発生した日でもあります。この災害で数多くの方々が被災され、また今なお避難生活を強いられている方もおり、一刻も早い復興をお祈りすると共に被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

今回プレーオフに挑むにあたり、３つのことをチームで誓いました。１つ目は、被災された方々に「勇気と感動」を与えられる試合をすること、２つ目は２年ぶりの開催であり待ち望んだファンの「期待に答える」試合をすること、３つ目はハンドボールの「魅力（面白さ、楽しさ）を伝える」ことであります。それをコート上で表現するにはチームがひとつにならなければできません。よって、一番力を入れてきたこ

写真提供・スポーツイベント社

とは「チームをひとつにする」ということです。どこまで試合の中で表現でき感じ取られたかは分りませんが、選手一同そこへ向って一生懸命取り組みました。

その結果、２戦とも非常に苦しく厳しい内容でありましたが、２年ぶり15回目の優勝に繋がったのだと感じております。選手個人が自分のやるべき役割を自覚し行動に移しました。若手選手（入社前の加藤、新人GK久保、２年目棚原）の迷いのない思いっきりのよいプレー、中堅選手（地引、山城、千々波）の安定感、ベテラン選手（末松、武田）の勝負強さなど、各々の役割が上手く噛み合いチーム一丸で戦えたと感じております。

また、素晴らしい試合には素晴らしい相手が必要です。ともに戦った大崎電気およびトヨタ車体の選手スタッフに感謝するとともに、今後とも切磋琢磨でハンドボール界発展のために努力して参ります。

最後になりますのが、目指すべきところは「世界に通用するハンドボールチーム」であり、４月19日～福井県で開催される東アジアハンドボールクラブ選手権優勝に向けて、早々に再出発いたします。

日本リーグを開催するにあたり、レギュラーシーズンよりご尽力いただきました各都道府県協会および関係者の皆様方、会場まで足を運んで応援くださったファンや家族、応援団の方々、本当にありがとうございました。

大同特殊鋼・末松　誠（男子最高殊勲選手）

３月10日、11日に駒沢体育館でプレーオフが行われました。昨年は６連覇のかかったプレーオフが震災の影響により中止となりリーグ3位と残念な結果になりました。また、日本一を賭けて戦った全日本総合でも決勝戦でトヨタ車体に破れ日本一には一歩及ばず悔しい思いをしました。そして迎えたプレーオフ。レギュラーシーズンでは大崎電気・トヨタ車体ともに敗戦し、３位でプレーオフの出場権を獲得しました。いずれにしてもプレーオフでは準決勝、決勝の２試合を勝たなければ日本一を掴み取る事は出来ないため一戦一戦をどんな状況になろうと決して諦めず、大同の持ち味であるチームワークを武器に戦い抜く事をチーム全員で確かめ合い試合に臨みました。

準決勝の相手は、昨年の全日本総合決勝で破れたトヨタ車体との対戦でした。スタートこそ大同のリズムで試合を運びますが、昨年の総合チャンピオンという相手の意地もあり、お互い一歩も譲らない試合展開となりました。最後は残り５秒で大同が得点し１点リード。相手も諦めず最後のシュートを狙いに来ますが、これを地引選手が体を張って止めに行き、何とか１点差で勝利しました。しかし、決勝戦に駒を進めたものの、最後のファウルがレッドカードの判定となり、チームの主力である地引選手が決勝戦には出場できない事となり少し不安を抱えながら決勝戦を迎える事になりました。

決勝戦前のミーティングでは戦術の確認を行いましたが、主に確かめ合った事は『自分達のチームハンドボールをやろう』という事でした。

昨日、闘志をみせてくれた地引選手の為、代わって出場する選手はそれに負けない働きをする。またレギュラーシーズン３位でありチャレンジャーとして、どんな状況でも決して諦めない事を全員で決め決勝に臨みました。

試合はプレーオフ独特の雰囲気があり気持ちと気持ちのぶつかり合いでした。お互い絶対に勝つというパフォーマンスで前後半でも決着がつかず延長戦へともつれ込みました。取って取られての展開が続くと思われましたが勝負所で大同GKがスーパーセーブを見せ、36対32で２年振り15回目の優勝を果たしました。その結果、私は最高殊勲選手という素晴らしい賞を頂きましたが、この賞はレギュラーシーズンからチーム一丸となり苦しい時も辛い時もチームワークで頑張り抜いた全員の賞であると感じています。

これからも見ている人が楽しめるハンドボール、また感動し勇気を与えるチームハンドボールを展開できるようにチーム一丸頑張って行きたいと思います。

写真提供・スポーツイベント社

女子優勝：オムロン

オムロン・ヘッドコーチ：黄　慶泳

今回の第36回日本リーグプレーオフで３年ぶり15回目の優勝ができて本当に心から喜んでおります。何よりもオムロンハンドボールチームを応援してくださっている皆様方に優勝のご報告が出来てほっとしておりますし、関係者の皆様方には心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。２年前世代交代の流れからチーム強化を進める中で安定しない厳しい戦いが続きましたが、伝統の守り勝つというオムロンらしい戦いで優勝をもぎ取ったのは非常に良かったと思います。

久しぶりのプレーオフという舞台での戦いで、私も含めて選手達は準決勝のスタートから緊張して硬いプレーが目立ちましたが、守りを固めていく上に徐々に緊張感がなくなり、よい動きを見せてくれたと思います。その戦いが表現出来た根底には、レギュラーシーズンも含めてプレーオフ直前からオムロンチーム本来の姿、基本の徹底、危機感等も含めてチームの方向性を的確に提示、アドバイスしてくださったGM代行西窪様のお陰だと思います。そして諦めることなく組織力を最大限引き出して戦えるようにチームを一つに纏めてくれた久野キャプテンの努力がなかったら、このような結果は難しかったと思います。本当に感謝の気持ちで一杯です。

３年ぶりにリーグの頂点に立つことは出来ましたが、これからがチームのスタートと考えています。チームの完成度、成熟度はまだ低いですし、修正、成長しなければならない所が沢山ありますので更なる努力と汗が必要と考えています。

オムロンの試合を観戦された方々から、本当にまた応援に行きたいと思って頂ける様なチームを目指して日々努力して参りたいと思います。

最後になりますが、皆様方には引き続きオムロンハンドボールチームをご支援、ご声援頂きます様にお願い申し上げまして、プレーオフ優勝のご報告といたします。

本当にありがとうございました。

オムロン・藤間かおり（女子最高殊勲選手）

この度、第36回日本ハンドボールリーグ・プレーオフにおいて３年ぶり15回目の優勝という最高の結果を残すことができ、心から喜んでおります。これもひとえに日頃からオムロンハンドボール部を支えてくださっている社員の皆様を始め、いつも試合会場まで足を運んで熱い声援を送ってくださったサポーターの皆様の支えがあってこその結果だと思っております。この場をお借りし改めて御礼申し上げたいと思います。

本当にありがとうございました。

２年前のプレーオフでは、準決勝でソニーセミコンダクタに敗れ、昨年は日本リーグ４位で終わりプレーオフ進出さえ出来ず、大変悔しい思いをしてきました。だからこそ、今回のプレーオフは私達にとって特別なものであり、必ず優勝したいという強い気持ちで臨みました。

この優勝の決め手となったのは、これまでの先輩方が築きあげ、守り続けて下さったオムロンのディフェンス力だと思います。準決勝では、攻撃力の多彩なソニーセミコンダクタ相手に17失点、決勝ではスピーディーな速攻が持ち味の北國銀行相手に15失点と、まさに『鉄壁』でした。

今回、最高殊勲選手賞という素晴らしい賞を頂けたのもチーム全員の強い守備意識がもたらした結果です。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

チームの状態は決してベストではありませんでしたが、ベンチ入りした16人の選手の力だけでなく、メンバーから外れた６人全員でそれをカバーし、選手同士の絆の強さが存在していたからこそできた優勝だと思います。

この優勝に満足することなく、これから女王の座を守り続けられるようにチーム一丸となり頑張っていきたいと思います。今後ともオムロンハンドボール部を宜しくお願い致します。１年間、沢山の熱いご声援ありがとうございました。

戦評

男子

▼準決勝

大崎電気　28（15 − 14、13 − 12）26　湧永製薬

プレーオフ男子準決勝第 1 試合は、レギュラーシーズン 1 位大崎電気と 4 位湧永製薬の対戦。湧永のスローオフで試合開始。開始 1 分 9 秒、ペナルティー獲得により湧永に 7 m スローのチャンス。しかし、大崎 GK・No. 1 浦和が見事なセーブを見せる。3 分に大崎電気No. 8 東長濱による初得点。7 分まで 2 対 2 と両者一歩も譲らない展開を見せる。7 分過ぎに大崎電気 7m スロー獲得のチャンスであったが、No. 8 東長濱選手が湧永 GK 志水選手の顔に当ててしまい、レッドカードで失格。その後も、退場者が続き、コートプレーヤー 5 人対 5 人での試合展開も見られた。前半 10 分の時点で 4 対 4 と接戦。流れを掴みたい両チーム。12 分に大崎電気、No. 77 宮﨑大輔を投入。大崎電気は高いディフェンスで湧永にプレッシャーをかける。湧永は、早いカットイン、サイドシュートでの得点、大崎は速攻などで点を重ね一進一退の攻防。前半 20 分大崎の 7m スローを、No. 4 前田が決め 9 対 9 の同点とした。その後、大崎電気キーパーのNo. 1 浦和がナイスセーブを見せる。湧永はその後、相手チームが退場で人数が少ない時間を生かし速攻などで 3 連続得点。しかし、大崎電気もNo. 4 前田のサイドシュート、No. 77 宮﨑大輔のミドルなどで前半ラスト 2 分で追いついた。さらにラスト 17 秒でNo. 13 森のポストシュートで得点、15 対 14 と大崎の 1 点リードで前半を折り返した。前半だけで両チーム合わせ警告 6 枚、退場者 2 名と荒れた試合展開となった。

後半は湧永のNo. 9 佐藤のサイドシュートからの得点でスタート。大崎は GK 浦和のナイスセーブからの速い 2 次速攻。湧永はセットプレーから、No. 10 名嘉の高いジャンプからのサイドシュートなど息もつかせぬ展開が続く。後半 10 分で 18 対 19 と、大崎 1 点リードであるが、後半に入っても一進一退の攻防が続く。湧永は後半 15 分、No. 23 東長濱が力強いロングシュートで今日、9 得点目を決めるなど大活躍。負けじと大崎もNo. 77 宮﨑大輔がロングシュートを放つが、キーパー志水のファインセーブに阻まれる。しかし、高いジャンプからのポストパスでNo. 13 森が決める。その後湧永No. 6 山中の退場により、大崎は突き放すチャンスを得るが、今度は、大崎No. 13 森が退場し一転、湧永のチャンスとなる。7m スローを湧永のNo. 23 東長濱が落ち着いて決め、同点とする。22 分の時点で、25 対 25 と 1 点をめぐる争い。23 分にNo. 77 宮﨑大輔、26 分にNo. 19 猪妻が連続得点を決め大崎が 2 点リードし流れを引き寄せたかと思われた。しかし、湧永もNo. 5 今井のポストシュートで 1 点差に迫る。ラスト 1 分で湧永No. 6 山中が無念の退場。その後大崎電気No. 3 小澤がサイドシュートを決め、2 点差で逃げ切った。

大同特殊鋼　29（14 − 13、15 − 15）28　トヨタ車体

プレーオフ男子準決勝は、レギュラーシーズン 2 位トヨタ車体と 3 位大同特殊鋼の対戦。大同のスローオフで試合開始。大同No. .4 末松のミドルシュートで先制。大同は高いディフェンスからNo. 4 末松とNo. 15 山城の連続速攻などで前半 5 分、4 対 1 と大同リード。車体もNo. 15 鶴谷のサイドシュートとNo. .10 木切倉のミドルシュートで反撃。その後、両チーム GK のナイスセーブで一進一退の攻防が続く。大同はNo. 4 末松のランニングシュートとNo. 13 加藤のポストシュートで前半 18 分、10 対 7 と大同リード。車体も多彩な攻撃からNo. 22 門山のロングシュート、No. 8 藤田のポストシュートなど 4 連続得点で、前半 26 分過ぎについに 12 対 11 と逆転する。しかし、大同も GK 久保のナイスセーブで流れを渡さず、前半残り 2 分でNo. 13 加藤のポストシュートとNo. 9 武田のロングシュートで再逆転し、13 対 14 で大同リードで前半で折り返す。

後半に入り、車体はNo. 5 高智のポストシュート、No. 18 崎前の速攻など 3 連続得点で 16 対 14 と好スタート。大同も、No. 9 武田のサイドシュートやNo. 2 棚原のミドルシュートで追撃、後半 10 分、20 対 19 で再び大同逆転。その後は、両チームは点の取り合いで追い着き追い越せの激しい攻防が続き、一進一退でどちらも譲らず後半 19 分、24 対 24 の同点。大同は、20 分過ぎ後半絶好調のNo. 9 武田が速攻とミドルシュートの連続得点で 26 対 24 の 2 点差のリードつける。流れは大同に傾きかけたが、車体も猛反撃を見せ、後半残り 30 秒、No. 22 門山のミドルシュートで 28 対 28 で同点。このまま延長かと思われたが、残り 5 秒、大同No. 15 山城のサイドシュートが決まり大同が大接戦を制した。

▼決勝

大同特殊鋼　36（16 − 16、11 − 11、5 − 4、4 − 1）32　大崎電気

プレーオフ男子決勝は、レギュラーシーズン 1 位大崎電気と 3 位大同特殊鋼の対戦。大同特殊鋼のスローで試合開始。大同No. 2 棚原のカットインシュートで幕を開けた決勝戦は、続けてNo. 13 加藤、No. 9 武田の得点で 3 対 0 とし、立ち上がり大同が主導権を握る。このまま大同ペースかと思われたが、4 分、6 分に 7m スロー、7 分にもカットインで大崎No. 8 東長濱が連続得点をあげ、一気に 4 対 4 の同点に追いつく。その後は、両チームともに点を取り合う一進一退の攻防が続く。早く流れを掴みたい両チームだが、大崎No. 22 吉田、大同No. 12 久保の両 GK のファインセーブにより、互いにペースをつかむことができない。16 対 16 の同点で前半を終えた。

後半は大同No. 15 山城のサイドシュートで始まるも、すぐさま大崎No. 14 岩永、No. 15 夏山が連続得点をあげ、18 対 17 と大崎が逆転する。早くペースをつかみたい両チームだ

が、前半同様に両GKのファインセーブが続き、なかなか得点できない。7分過ぎから、大崎No.13森のポストシュート、No.6豊田の速攻などで21対19と突き放しにかかるも、11分に大同No.13加藤がカットインを決め、1点差に迫る。その後は、26分まで両者一歩も譲らない展開を見せる。27分、大同No.15山城の速攻、No.77宮崎のカットインで互いに点を取り合い、27対26と再び1点差になったところで、大同がタイムアウト。29分に大崎No.14岩永がミドルシュートを決め同点とした後、大崎が速攻を仕掛けNo.77宮崎がシュートを試みるも、大同No..9武田が決死のディフェンスで阻止。宮崎がノータイムフリースローを打つも枠を外れ、この一戦は27対27の同点で延長戦にもつれ込む試合となった。

延長前半、大崎No.6豊田のミドルシュートで始まり、大同No.4末松のサイドシュートで応戦するという両者点を取り合う展開となる。終了間際に大同No.4末松がロングシュートを決め、32対31で大同リードで前半を折り返す。延長後半、大同No.10岸川、No.13加藤の連続得点で3点差とする。その後も大崎のフリーシュートを、大同GK陣が幾度も阻止し、大崎の追撃を許さない。延長にまでもつれこんだ白熱した決勝戦は、36対32で大同特殊鋼が勝利をおさめ、2年ぶり15回目の優勝を手にした。両チームの良さが発揮された素晴らしいプレーが満員の会場全体のハンドボールファンを魅了した。

女子

▼準決勝

オムロン　24（10－10、14－7）17　ソニーセミコンダクタ

プレーオフ女子準決勝は、レギュラーシーズン2位オムロンと3位ソニーが対戦。ソニーのスローオフで試合開始。ソニーはNo.2山野のカットインシュートで先制。オムロンもすかさずNo.17東濱のミドルシュートで返す。しかし、オムロンは立ち上がりから固さもあり、ソニーNo.4高橋のポストシュート、No.17錦織の速攻などで、前半8分過ぎまでに1-4でリードされる。オムロンはすかさずタイムアウトを要請。その後オムロンNo.8石立のカットインやNo.13勝連のサイドシュートなど3連取で前半13分に4対4の同点。その後は一進一退の攻防が続き、前半25分、オムロンNo.22金のポストシュートNo.17東濱のロングシュートで9対7とオムロンが逆転。しかし、オムロンに退場者が出て前半は10対10の同点で折り返す。

後半の立ち上がりは、ソニーの7mスローで始まったが、オムロンNo.1藤間が阻止。その後4分過ぎの7mスロー、ポストのノーマークシュートも阻止し、流れはオムロンへ。No.7藤井の回り込みシュートやNo.17東濱のスカイプレー、No.13勝連の速攻などで後半8分過ぎ14対10とオムロンがリード。ソニーはすかさずタイムアウトを要求。ソニーはベテランNo.5田中のサイドシュートやNo.17錦織のポストシュートで追跡するも、オムロンもNo.7藤井のステップシュートやNo.5稲葉のロングシュートで後半23分21対15と更に突き放し、その後もオムロンは控え選手を送り込む余裕で24対17で勝利した。

▼決勝

オムロン　18（9－7、9－8）15　北國銀行

プレーオフ女子決勝は、レギュラーシーズン1位北國銀行と2位オムロンの対戦。北國銀行のスローオフで試合開始。オムロンNo.13勝連のサイドシュートで先制するも、すかさず北國No.5樋口のミドルシュートで返す。立ち上がりから両チームともに足を使ったディフェンスで相手に決定的なチャンスを与えない。4分オムロンNo.13勝連が得点するも、すぐさま北國No.6石野のカットインで3対2とし、8分に北國銀行No.6石野のサイドシュートで同点、9分に北國銀行No.4上町が得点し、3連続得点で逆転するも、すぐさま、オムロンNo.17東濱のシュートで4対4の同点とする。その後は、両チームのGKのナイスセーブで一進一退の攻防が続く。この間、11分に北國No.4上町、16分に北國No.8小野澤が退場するも、オムロンは点差を広げることはできず。両チームともにディフェンスが機能し、19分の時点で6対6の同点。19分、オムロンNo.7藤井が長い均衡を破るも、すぐさま、北國No.4上町が得点し、7対7の同点に追いつく。21分、北國がチームタイムアウトを要求するも、得点に結びつけることが出来ず、逆にオムロンNo.3髙田がサイドシュートを決め、8対7と逆転。オムロンキーパーのナイスセーブが続く間に、オムロンNo.13勝連がサイドシュートを決め2点差とし、9対7とオムロンリードで前半を終了した。

後半は、オムロンのコートプレーヤーが1名少ない状態からスタート。その苦しい中、オムロンNo.1藤間のファインセーブで北國の得点を許さない。2分に北國No.9横嶋のポストシュート、3分にNo.17八十島が速攻を決め、9対9の同点に追いつく。オムロンは、No.22金の得点で再びリードすると、続けざまにNo.13勝連のサイドシュートで11対9の2点差に広げる。その後、一進一退の攻防が続く。この間に北國に退場者が出るも、オムロンは攻撃がかみ合わず、点差を広げることができない。しかし、13分あたりから、オムロンは本日好調の勝連の得点などで点差を広げ始め、すかさず北國はタイムアウトを要求。タイムアウト後は、互いに点を取り合う展開が続く。オムロンNo.13勝連の退場を期に点差を縮めたい北國だが、ミスが重なりなかなか得点に結びつかず、逆にオムロンに点差を広げられ17対12となる。流れはオムロンかと思われたが、No.17東濱の退場を境に北國がリズムを取り戻し、2点差に追い上げる。すかさず、オムロンはタイムアウトで流れを止めにかかる。その後、両GKのセーブが続くも、終了間際、オムロンNo.22金がポストのループシュートを決め、3点差としたところで試合終了。18対15でオムロンがレギュラーシーズン1位の北國銀行を破り、3年ぶりの優勝を果たした。

順位表 レギュラーシーズン

男子

順位		大崎	車体	大同	湧永	紡織	琉球	合成	北電	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	大崎電気	＼	28 27 ● △ 31 27	29 33 ○ ○ 21 31	32 31 ● ○ 33 30	36 38 ○ ○ 24 31	32 33 ○ ○ 26 28	41 40 ○ ○ 21 33	37 43 ○ ○ 25 21	14	11	1	2	480	382	98	23
2.	トヨタ車体	27 31 △ ○ 27 28	＼	25 26 ● △ 30 26	25 35 ● ○ 30 27	35 32 ○ ○ 33 26	35 36 ○ ○ 23 13	37 33 ○ ○ 18 32	43 38 ○ ○ 15 19	14	10	2	2	458	347	111	22
3.	大同特殊鋼	31 21 ● ● 33 29	26 30 △ ○ 26 25	＼	25 33 ○ ○ 23 29	33 34 ○ ● 31 35	31 25 ○ ○ 23 24	37 34 ○ ○ 26 28	37 37 ○ ○ 18 18	14	10	1	3	434	368	66	21
4.	湧永製薬	30 33 ● ○ 31 32	27 30 ● ○ 35 25	29 23 ● ● 33 25	＼	33 27 ○ ● 26 33	28 31 ○ ○ 27 21	33 26 ○ ● 26 27	37 36 ○ ○ 26 19	14	8	0	6	423	386	37	16
5.	トヨタ紡織九州	31 24 ● ● 38 36	26 33 ● ● 32 35	35 31 ○ ● 34 33	33 26 ○ ● 27 33	＼	28 21 ○ ● 24 26	37 34 ○ ○ 27 28	35 34 ○ ○ 29 25	14	7	0	7	428	427	1	14
6.	琉球コラソン	28 26 ● ● 33 32	13 23 ● ● 36 35	24 23 ● ● 25 31	21 27 ● ● 31 28	26 24 ○ ● 21 28	＼	26 22 ○ △ 24 22	26 28 ○ ○ 21 22	14	4	1	9	337	389	-52	9
7.	豊田合成	33 21 ● ● 40 41	32 18 ● ● 33 37	28 26 ● ● 34 37	27 26 ○ ● 26 33	28 27 ● ● 34 37	22 24 △ ● 22 26	＼	25 27 ○ ○ 21 26	14	3	1	10	364	447	-83	7
8.	北陸電力	21 25 ● ● 43 37	19 15 ● ● 38 43	18 18 ● ● 37 37	19 26 ● ● 36 37	25 29 ● ● 34 35	22 21 ● ● 28 26	26 21 ● ● 27 25	＼	14	0	0	14	305	483	-178	0

※勝敗（○、△、●）の上が得点、下が失点を表し、左側がホーム、右側がアウェイの結果を表す。

女子

順位		北國銀行	オムロン	ソニー	メイプル	三重	HC名古屋	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	北國銀行	＼	21 27 17 △ ○ ○ 21 26 14	34 24 18 ○ ○ ● 23 19 28	29 25 24 ○ △ △ 26 25 24	38 37 28 ○ ○ ○ 18 13 14	39 36 34 ○ ○ ○ 14 12 14	15	11	3	1	431	291	140	25
2.	オムロン	21 26 14 △ ● ● 21 27 17	＼	35 22 23 ○ ● ○ 25 23 21	32 25 28 ○ ○ ○ 19 16 22	33 36 40 ○ ○ ○ 13 14 14	39 34 32 ○ ○ ○ 13 9 13	15	11	1	3	440	267	173	23
3.	ソニー セミコンダクタ	23 19 28 ● ● ○ 34 24 18	25 23 21 ● ○ ● 35 22 23	＼	24 19 27 ● △ ○ 28 19 23	35 37 41 ○ ○ ○ 26 25 13	30 27 30 ○ ○ ○ 11 14 15	15	9	1	5	409	330	79	19
4.	広島 メイプルレッズ	26 25 24 ● △ △ 29 25 24	19 16 22 ● ● ● 32 25 28	28 19 23 ○ △ ● 24 19 27	＼	31 30 39 ○ ○ ○ 18 22 12	33 22 29 ○ ○ ○ 16 13 12	15	7	3	5	386	326	60	17
5.	三重バイオレット アイリス	18 13 14 ● ● ● 38 37 28	13 14 14 ● ● ● 33 36 40	26 25 13 ● ● ● 35 37 41	18 22 12 ● ● ● 31 30 39	＼	26 20 16 ○ ○ ○ 17 19 12	15	3	0	12	264	473	-209	6
6.	HC名古屋	14 12 14 ● ● ● 39 36 34	13 9 13 ● ● ● 39 34 32	11 14 15 ● ● ● 30 27 30	16 13 12 ● ● ● 33 22 29	17 19 12 ● ● ● 26 20 16	＼	15	0	0	15	204	447	-243	0

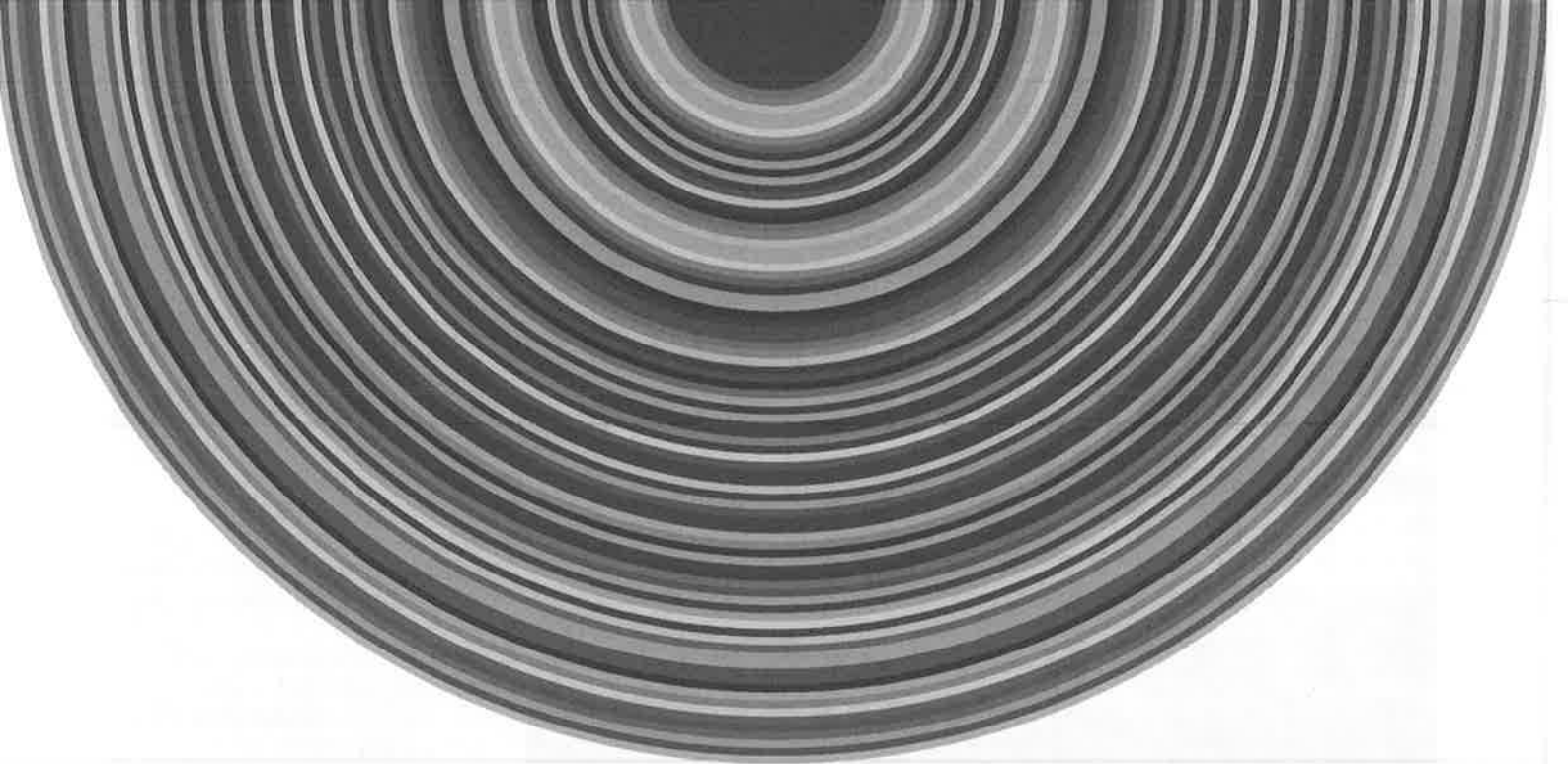
※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

個人表彰

男子

賞	氏名	所属	記録	回数
最高殊勲選手賞	末松　誠	（大同特殊鋼）		2回目
最優秀監督賞	清水博之	（大同特殊鋼）		4回目
殊勲選手賞	宮﨑大輔	（大崎電気）		3回目
得点王	村上秀行	（トヨタ紡織九州）	95点	初
フィールド得点賞	村上秀行	（トヨタ紡織九州）	94点	初
シュート率賞	富田恭介	（トヨタ車体）	0.776	初
7mスロー得点賞	東長濱秀希	（大崎電気）	27点	2回目
7mスロー阻止率賞	松村昌幸	（湧永製薬）	0.429 (6/14)	初
最優秀選手賞	門山哲也	（トヨタ車体）	初	
最優秀新人賞	久保侑生	（大同特殊鋼）		
ベストセブン賞	浦和克行	（大崎電気）	初	
	東長濱秀希	（大崎電気）	2回目	
	宮﨑大輔	（大崎電気）	7回目	
	富田恭介	（トヨタ車体）	3回目	
	門山哲也	（トヨタ車体）	2回目	
	山城貴志	（大同特殊鋼）	初	
	村上秀行	（トヨタ紡織九州）	4回目	
ベストディフェンダー賞	富田恭介	（トヨタ車体）	3回目	
フェアプレー賞	大同特殊鋼，トヨタ車体 92点／14試合（6.571点／試合）			

女子

賞	氏名	所属	記録	回数
最高殊勲選手賞	藤間かおり	（オムロン）		初
最優秀監督賞	黄　慶泳	（オムロン）		5回目
殊勲選手賞	田代ひろみ	（北國銀行）		初
得点王	上町史織	（北國銀行）	121点	3回目
フィールド得点賞	上町史織	（北國銀行）	88点	初
シュート率賞	小野澤香理	（北國銀行）	0.790	2回目
7mスロー得点賞	山野由美子	（ソニーセミコンダクタ）	35点	初
7mスロー阻止率賞	堂面妙子	（広島メイプルレッズ）	0.320 (8/25)	3回目
最優秀選手賞	田代ひろみ	（北國銀行）	初	
最優秀新人賞	山野由美子	（ソニーセミコンダクタ）		
ベストセブン賞	田代ひろみ	（北國銀行）	4回目	
	上町史織	（北國銀行）	5回目	
	藤井紫緒	（オムロン）	3回目	
	勝連智恵	（オムロン）	初	
	髙田裕梨	（オムロン）	初	
	山野由美子	（ソニーセミコンダクタ）	初	
	高山智恵	（広島メイプルレッズ）	初	
ベストディフェンダー賞	小野澤香理	（北國銀行）	3回目	
フェアプレー賞	オムロン 88点／15試合（5.867点／試合）			

限りない未来へ　大いなる期待と願いをこめて

―第35回全国高校選抜大会を振り返って―

岩手県高体連ハンドボール専門部委員長　**中島 昭博**

「イーハトーブの風に乗り 花巻く世界へ君は翔ぶ」の大会スローガンのもと、新たに増築された花巻市総合体育館アネックスをメインに花巻市民体育館、富士大学スポーツセンターの3会場において、第35回全国高等学校ハンドボール選抜大会が開催されました。大震災のために前回中止となったことで2年ぶりに開催された大会の内容をご紹介いたします。

3月24日、開会式に先立ち、来賓・選手・大会関係者・観客一同、東方に向かって黙祷を捧げた後、一年前の大津波によって7万本もの松がなぎ倒されて変わり果てた浜に奇跡的にそびえたつ"一本の松"で知られた陸前高田市の氷上(ひかみ)共鳴会による「氷上(ひかみ)太鼓～いのちの鼓動」が披露されました。前々年度優勝校男子香川中央高校、女子四天王寺高校を筆頭にチーム紹介が行われ、全国高体連専門部船木委員長による開会宣言の後、優勝杯・準優勝杯・優勝旗・アシックス杯の返還並びにレプリカ授与、日本協会川上専務理事の挨拶、岩手県高体連山田会長の祝辞、岩手県協会太田会長及び花巻市大石市長の歓迎の言葉が述べられました。その後、開催地男女代表の盛岡第一高校小野主将と盛岡南高校小田島主将による選手宣誓が行われ、フィナーレには釜石・花巻南・花巻北3高合同合唱団による「瑠璃色の地球」、「イーハトーブの風」、「剣舞の歌」が披露されました。

競技初日（25日）、2会場4コートで熱戦の火蓋が切られ、1回戦男女8試合ずつが行われました。2日目（26日）、3会場6コートで2回戦男女16試合ずつ、3日目（27日）、2会場4コートで男女8試合ずつが行われ、地元出身選手が男女共に活躍した不来方高校が勝ち進み、盛り上がりに弾みがつきました。4日目（28日）、男子準々決勝では事前から今大会の見所として話題となった因縁対決が実現し、不来方高校が興南高校に勝利したことにより、メディア各社に大きく取り上げられ、大会の雰囲気も俄然盛り上がりました。その夜に、震度5弱の余震が発生し、すぐに選手の安否確認と危機管理体制の見直しを行いました。

5日目（29日）、準決勝は男子が不来方－藤代紫水、北陸－岩国工業、女子が華陵－大分鶴崎、四天王寺－小松市立。どの試合もお互いの力量を存分に発揮し合った好ゲームが展開されました。

最終日（30日）、女子決勝戦直前、この試合の審判を担当する中舘豊氏が審判定年を迎える最終試合となることから、長年、トップレフェリーとして、また、ヤングレフェリー育成等ハンドボール界への多大な貢献を称えて、ペアの多田和生氏と共に、川上専務理事から花束が贈られました。サプライズのセレモニーに、両チームの選手が自然にコート中央に歩み寄り、笑顔で拍手を送る光景は、とても和やかで清清しいスポーツマンシップが醸し出された瞬間でした。

決勝戦は、男女共に連戦の疲れを感じさせない白熱した好ゲームでした。女子は、インターハイ、国体を制した華陵高校が終始落ち着いたゲームコントロールで初優勝を飾りました。男子は、初の決勝進出を果たした地元の不来方高校が大応援団の声援を背にあげた大量リードを不屈のプレーで覆し、残り3秒の決勝ゴール後の、ノータイムフリースローを凌いだ北陸高校が3度目の優勝を飾りました。両チームとも存分にハンドボールの魅力と醍醐味を披露してくれて、会場が興奮の坩堝と化した「球史に残る一戦」でした。

ここに、出場チームの健闘を称え、これまで精進してきた選手と指導していただきました監督スタッフに心からの感謝と敬意を表しますと共に、インターハイ、国体に向けて志を高く掲げて更なる向上を目指していただきますようご祈念申し上げます。

以下、競技運営とは別に展開した内容です。

トレーナー・サポート：全会場に全日程、アスレチックトレーナーを配置して、選手・審判のコンディショニングに活躍していただきました。アンチ・ドーピング・アウトリーチ：24-28日の5日間、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）の「PLAY TRUE ～真の姿で競技に臨むこと」の啓蒙活動を実施しました。

初日競技終了後、上記アスリート委員として日本協会から派遣された上町史織選手（北國銀行）と銘刈淳選手（トヨタ車体）による高校生補助員対象講習会を実施しました。長期間、準備運営に携わってくれる地元高校生にとって、素敵なプレゼントとなりました。4日目競技終了後、「世界へ羽ばたけ！～子どもたちへ送るメッセージ」と題し、来季から日本リーグ参戦が公表されたトヨタ自動車東日本監督就任予定の中川善雄氏と国際委員会副委員長のローランド氏による小中学生対象ミニハンドボールとトークイベント（MC：宇野和男氏）を行いました。山口県から応援にきた親子も参加してくれました。お楽しみ抽選会では次代を担うハンドボーラーに協賛企業提供プレゼントが全員に手渡されました。

最終日、男子決勝ハーフタイムに市内保育園児26人による「こども火消し纏(まとい)振り」を披露してもらいました。

「日本代表男女チームに魂のエール（寄せ書き）を送ろう！」と題して、メイン会場ロビーに大きな日の丸への書き込みと日本代表男子チームからのビデオレター、及び、上町選手と日本代表女子チームの特集番組（NHK盛岡放送局）を大型モニターで流し、その周囲に世界選手権等の写真をディスプレイしました。

昨年の大会中止以来、今日まで全国・世界各地から寄せていただいた励ましの寄せ書きを体育館通路に掲示しました。試合のスナップ写真を掲示し、写っている選手へプレゼントするサービスを実施しました。空港、新花巻駅、JR花巻駅、競技会場に歓迎のぼりと、市内小学生による歓迎＆励ましメッセージカードをパネル展示しました。大会PR：事前にプレスリリースを発行し、大会前1回、大会中2回、地元FM局に生出演して大会のPRとご来場と観戦を呼びかけました。

《詳細は下記をご参照ください》

☆岩手ハンドボール応援ページ：
http://homepage3.nifty.com/iwate-handball/index.htm

☆リトルハンド
http://abe.ihatov.jp/handball/top.htm

☆岩手スポーツマガジン Standard web
http://www.iwatestandard.jp/handball_iwate.html

☆いわて元気TV i-sports
http://www.iwate-genki.tv/

世界及び全国各地の多くの皆様方から寄せて頂きました励ましとご厚情に後押しされながら、地域行政、日本協会、全国高体連専門部、マッチバイザー、審判員ほか競技役員（岩手県協会・専門部・関係委員）が一体となって、大会をやり遂げることができました。大会運営で大事にしたことは「プレーヤーズファースト」を心掛けることでした。さらに、チーム役員、観客、トレーナー、大会・競技役員、会場施設関係者、行政、OB・OG、保護者、アトラクション関係者、メディア、協賛企業・団体、地域関係者などの多くの皆様との絆を大切にして、繋がりを広げることを目指しました。応援に駆けつけた方々やOB・OG、報道関係者、地域の方々にハンドボール競技会場を楽しんで頂けるように取り組みました。出場チームが見せてくれた渾身のプレーは、多くの人々に感動と勇気を与えていただけたものと嬉しく思っております。また、大会を通じて取り組んだことが、果たしてハンドボールファンの拡がりとハンドボール競技の価値向上の一助となってもらえたら幸いですし、皆様の思いがロンドンオリンピック最終予選に臨む日本代表チームへの追い風となってくれることを切に願っています。

結びに、一連の花巻での大会開催に関わって、ご支援ご協力を頂きました関係各位に深甚なる敬意と感謝を申し上げますと共に、2012北信越かがやき総体、並びに第36回選抜静岡大会が成功されますことを心よりご祈念申し上げて、総評とさせていただきます。3年間、ありがとうございました。

転勤先：岩手県政策地域部国体室（第71回国民体育大会岩手県準備委員会事務局）TEL:019-629-6292 FAX:019-629-6299
E-mail a-nakashima@pref.iwate.jp

地元・不来方応援と震災への支援感謝の横断幕

多田・中舘両審判へ川上専務理事から花束贈呈

男子優勝：北陸高等学校（福井）

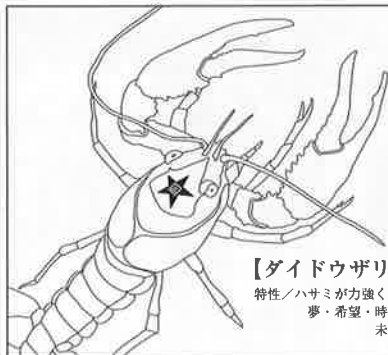
北陸高校総監督　志々場 修二

まずは、平成 23 年度第 35 回全国高等学校ハンドボール選抜大会におきまして、平成 19 年度、20 年度に続き、3回目の優勝をできましたことに対し、日頃よりご支援ご協力いただいております学校関係者の皆様、県体育協会、県高体連の皆様、ご父兄、OB の皆様に深くお礼申し上げます。有難うございました。

大会では、初戦の九州ブロック２位の大分雄城台高校との接戦を何とか制し、波に乗ることができました。続く、桃山学院高校、浦和学院高校と準決勝の岩国工業高校ともに各ブロック１位の実力通り、後半追い上げられながらも何とか逃げ切り、３年ぶりの決勝戦へ進むことができました。

決勝戦は、地元岩手県の不来方高校との対戦となりました。序盤、高さのある相手ディフェンスにミスを連発し速攻で走られての失点が目立ち、またノーマークシュートも相手ゴールキーパーの好守に阻まれ、一時は９点差までリードを広げられました。しかし、相手チームの２人退場を機に、５連続得点で追い上げ、前半を 20 対 18 の２点差で折り返すことができました。後半は、一進一退の攻防の末、ラスト 10 秒で逆転ゴールを決め、優勝することができました。お互いの持ち味を十二分に発揮したスピード感のある展開で決勝戦にふさわしく素晴らしいゲームができたことに感謝いたします。

最後になりましたが、今大会で運営にあたられた大会関係者の皆様、会場で応援してくださった皆様に心よりお礼申し上げます。本当に有難うございました。

写真提供・スポーツイベント社

女子優勝：山口県立華陵高等学校（山口）

山口県立華陵高校監督　吉兼 敦生

東北各地での復興のニュースがマスコミを通じて伝わってきます。まだまだがれきの山があり、復興の途についたばかりという地域もあると聞いています。昨年、東日本大震災で中止になった選抜大会が、２年ぶりに花巻市で開催されました。大会の開催にご尽力いただきました関係各位、岩手県協会、岩手県高体連専門部、花巻市の皆様のきめ細やかな大会運営に感謝申し上げます。開会式での陸前高田氷上太鼓の演奏は、私たちに勇気と元気と活力を与えてくれました。また力強い演技に、復興に向けた東北の方々の大きなエネルギーを感じとることができました。

選抜大会は新チームになっての最初の全国大会です。自分たちのやってきた練習が、全国でどのくらい通用するのか。大きな楽しみと不安がありました。今年のチームは昨年のチームと比較して全体的に身長が低く、体力的にはまだまだという感じです。しかし、一人ひとりのスピードとテクニックは決して昨年のチームに引けを取っていません。ハンドボールに関する知的スキルも高い選手がそろっていると思います。身体の小さい選手達が、スピードとコンビネーションで何とか結果を出してくれました。今後は、インターハイに向けて選手層を厚くし、フィジカルトレーニングで接触に強い身体作りをしていきたいと考えています。課題へのチャレンジと修正、これが華陵高校の練習での取組です。この大会での優勝を過信せず、自分たちのコントロールできることを確実にやっていこうと思います。

最後にご支援・ご協力をいただいた県体育協会、県協会、県高体連専門部を始め、華陵高校ハンドボール部を応援してくださった関係者の方々に心から御礼を申し上げます。

写真提供・スポーツイベント社

戦　評

男　子

▼準決勝

不来方　36（16 − 12、20 − 14）26　藤代紫水

前半、不来方は高身長を活かした 3 − 2 − 1DF を仕掛け、藤代紫水が攻め切れないところをついて、10 分過ぎに中村、齊藤、昆、安倍の 4 連取でリズムに乗る。不来方 GK 遠藤が相手のシュートを再三に渡り好セーブ。前半 4 点リードで折り返す。

後半も勢いの止まらない不来方は安倍、齊藤の両エースを中心に加点。20 分過ぎに最大 12 点差がつく。藤代紫水は、今野、木村で得点するも差が埋まることはなかった。不来方は初の決勝進出を決めた。

北陸　38（20 − 14、18 − 17）31　岩国工業

前半、北陸は素早いパス回しから白石のカットイン、大橋のポストシュートで試合を優位に進める。対する岩国工業は徳田、森木の 1 対 1 からのシュートで反撃する。北陸が退場者を出したときに点差を縮められず、20 対 14 の北陸リードで前半を折り返した。

後半、岩国工業は、GK 川岡の好セーブで反撃するが、北陸の 1 対 1 を守ることができず、38 対 31 で北陸が岩国工業を下した。

▼決勝

北陸　37（18 − 20、19 − 16）36　不来方

地元の不来方は大声援を背に集中力で昆、中花の連続得点で主導権を握る。対する北陸は不来方 GK 遠藤の好セーブに苦しむが、22 分以降、不来方の退場を機に、白石、田中の速攻などで最大 9 点差あったリードを 2 点差に縮めて折り返した。

後半早々、逆転に成功。その後、一進一退の攻防を繰り広げ、ラスト 3 秒で北陸の大橋のポストシュートが決勝点となり、37 対 36 で北陸が不来方を下して頂点に立った。

女　子

▼準決勝

華陵　36（16 − 12、20 − 13）25　大分鶴崎

前半、華陵はサイド、ポストシュートで加点。大分鶴崎は石川、菅本のロングシュートで対抗する。22 分過ぎ、華陵は松本、山根、宮崎、田村と連取して前半 4 点リードで折り返す。後半は華陵の一方的な試合展開となる。華陵 GK 波羅が大分鶴崎のシュートをことごとく防ぎ、それを速攻につなげ一気に点差を引き離す。大分鶴崎は 10 差がついた 7 分過ぎにタイムアウトを申請するが、流れを変えることはできず、点差が埋まることはなかった。試合巧者の華陵が決勝進出を決めた。

四天王寺　27（10 − 9、17 − 8）　17　小松市立

前半、小松市立は吉光の豪快なロングシュート、佐藤のカットインで 4 対 1 とスタートダッシュに成功した。そこからは、四天王寺の GK 清水の好セーブがあり、小松市立が得点をとれない時間が続く間に、四天王寺が 4 連取で追い上げ、上田のカットインで逆転成功。前半を 10 対 9 の四天王寺 1 点リードで折り返した。後半、四天王寺は退場者を出すが、素早いパス回しからのポストプレーで着実に得点を重ね、四天王寺が 27 対 17 で勝利した。

▼決勝

華陵　32（17 − 11、15 − 10）21　四天王寺

前半立ち上がり四天王寺はポストプレー、華陵はロングシュートで得点し、互角の展開。12 分過ぎから、華陵は堅いディフェンスからの速攻や相手の裏をつくプレー、田村、山根らの連取などで徐々に四天王寺を引き離し、17-11 の 6 点リードで前半終了。後半、華陵は速攻とロングやミドルシュートで得点。四天王寺は様々なポジションから、田代、永田らのシュートで応戦するが、得点差を縮めることができず、華陵が初優勝を飾った。

個人表彰

【男子】

■最優秀選手
田中　圭（北陸）

■優秀選手
柿崎雅俊（浦和学院）
屋比久浩之（興南）
徳田新之介（岩国工業）
安倍竜之介（不来方）
今野利彦（藤代紫水）
中花　仁（不来方）
助安功成（岩国工業）

■有望選手
玉川裕康（浦和学院）

【女子】

■最優秀選手
田村美沙紀（華陵）

■優秀選手
清水朋花（四天王寺）
神田菜実子（小松市立）
岩崎成美（華陵）
吉光　遼（小松市立）
綿引彩恵（埼玉栄）
松本ひかる（華陵）
永田美香（四天王寺）

■有望選手
塩崎瑛美（大分鶴崎）

大震災1年後の高校選抜大会（選抜取材記）

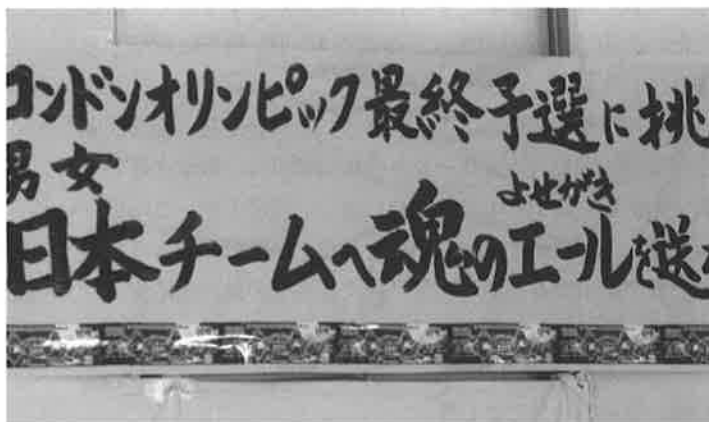
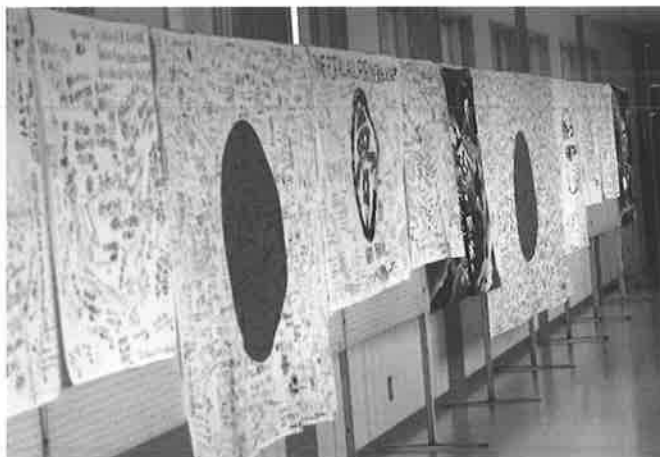
昨年の大震災後、花巻では、インターハイやインカレを開催してきた。力強い復興が進んでおり、地元岩手県ハンドボール協会の熱意には敬服を感じざるをえません。震災の影響で遅れていた、サブ体育館も今回は完成して、この大きな大会を順調に運営されていた。このサブ体育館は、ゴール裏にも観客席が設けられ、コート目線でも試合が観戦でき、迫力あるプレーを目の前で見られるというものであった。

メインアリーナとサブアリーナの渡り廊下には、全国から送られた復興応援寄せ書きが掲げられていた。（写真）

この大会に尽力されていた中島昭博競技副委員長からは、全国の応援戴いた皆様に感謝をしたいとのお話を戴いた。

また、ロンドンオリンピック予選の直前でもあり、ナショナルチームの応援コーナーが設けられ、応援寄せ書きに多くの方が応援メッセージを書き入れていた。

大会の方は、地元不来方高校の躍進で大盛り上がりであった。地元岩手日報では連日一面に写真入りで報道された。岩手県勢初めての全国大会決勝進出と言うことも重なり、決勝戦では、２階席の手すりにもすき間がないほどの観客で埋まった。試合の方は、初優勝を期待させる勢いであったが、試合巧者の北陸に残り３秒で決められ惜しくも準優勝で終わった。夏は雪辱を目指して頑張ってほしいものである。

大会全般に、どのチームもチームとしてのまとまりは今ひとつであった。これから夏の大会に向けてどの様なチームに育つか非常に楽しみなチームが多くみられた。各チームの切磋琢磨が、日本のハンドボールの発展に繋がることは確かである。夏の成長した姿も見てみたいと思えた。

第3回 チャレンジ・ディビジョン

日本ハンドボールリーグ機構　冨森 達人

2008年、世界金融危機による経済状況の悪化は、企業チームをはじめとする社会人スポーツ界にも大きな打撃を与え、いくつものチームが第一線から姿を消していきました。ハンドボールにおいても、Hondaやトヨタ自動車がトップリーグから撤退していく厳しい状況の中、逆境に打ち勝つために、このハンドボールチャレンジディビジョンを立ち上げてから早くも3年が過ぎました。

今大会も企業チーム、国体チーム、クラブチーム、学生チームの各カテゴリーから過去最大の12チームの参加がありました。残念ながら、国体を終えた山口県勢は不参加となりましたが、新たにOSAKA SELECTION、TOYAMA選抜、セントラル自動車、同朋クラブ、岐阜聖徳学園大学の5チームを迎え、チャレンジする意欲に溢れた活気ある大会となりました。

Aブロックは、連覇を目指すHC岐阜と、昨年3位に食い込んだ大同大学が順当に勝ち星をあげていきました。今年、地元岐阜で清流国体を迎えるHC岐阜は、スピード溢れる攻撃力に磨きがかかっており、また一段強くなったと感じました。大同大学もスピードでは全く引けを取らないチーム。巧みに攻撃リズムを変化させながら試合展開を優位に引き寄せていく戦い方には感心させられます。ブロック予選で注目されたこの両チームの対戦は大接戦の末、HC岐阜に軍配があがりました。

神奈川県から宮城県に本社が移されることから、第2回大会への参加を見合わせたセントラル自動車は、昨年3月の大震災の影響で練習もままならない厳しい環境の中、この第3回大会に元気な姿を見せてくれました。序盤は思うように実力を発揮出来ませんでしたが、徐々に本来の動きを取戻していきました。これには会社や地域の支援、チームスタッフや選手の只ならぬ努力の存在に加え、「復興」に向けた前へ進む強い気持ちを感じました。

Bブロックは、優勝候補の筆頭でありながら第1回大会は3位、第2回大会は準優勝と悔しい思いをしているホンダが、初戦こそ八光自動車に苦しめられたものの、それ以降は相手を寄せ付けない戦いぶりを見せました。八光自動車は、オフェンス時のバランスが良くなり得点力がアップした印象を持ちました。彼らの殆どが外車ディーラーの営業スタッフで、試合後は飛ぶように営業所へ戻っていきます。このように、社会人大会の各会場では、選手たち個々が、プレーさせてもらえる環境をつくり出すため、必死に努力をしている姿を目にする機会があります。

大阪から参加したOSAKA SELECTIONは、ボンチフェローズやソシオといったクラブチームで結成された国体チームで、その戦力は中々充実しています。"チーム"としての熟成が進めば一気に強くなれる可能性を秘めています。岐阜県から参加した岐阜聖徳学園大学は、日本代表を率いた経験もある田口監督が指導するスピードのあるチームで、フィジカル面の強化がなされれば、この大会でも上位で戦える力があります。今大会も、決勝トーナメント進出に向けた熱い戦いが繰り広げられ、多くの好ゲームを見ることが出来ました。年々強化されているチームが多く、現状維持では勝てない大会へ成長し始めていることに喜びを感じています。

1月末に愛知県豊田市で決勝トーナメントおよび順位決定戦を開催。決勝トーナメントに進出したのはHC岐阜、大同大学、Honda、OSAKA SELECTIONの4チーム。準決勝第1試合は、全勝でAブロックを制したHC岐阜と、Bブロック2位のOSAKA SELECTIONの対戦。互角の戦いを予想していましたが、意外にも前半からHC岐阜が突き放す展開となり、31対24でHC岐阜が勝利しました。後半粘りを見せたものの、前半についた点差を縮められず敗戦したOSAKA SELECTIONは、個々の能力が高く、関西のチームらしい明るさがあり、これから更に強くなることが期待出来ます。

準決勝第2試合は、全勝でBブロック1位通過のHondaとAブロック2位の大同大学の対戦。昨年の第2回大会準決勝ではHondaが圧倒し勝利しましたが、今年は大同大学が必死に食らいつき大接戦となりました。前半1点のリードで折り返した大同大学は、Hondaの猛攻を最後まで凌ぎ、初の決勝進出を果たしました。Hondaは、全日本総合で見せた気迫と集中力が発揮できず、今大会も優勝を逃す結果とな

りました。

決勝戦は、HC 岐阜と大同大学の対戦。初の決勝進出で勢いのある大同大学が、連覇を狙う HC 岐阜を終始リードする展開。佐藤監督の熱のこもった指揮のもと、選手全員がひたすらに勝利へ向けて駆け巡る大同大学を、HC 岐阜が社会人チームの意地と連覇への想いで辛抱強く追いかけた末に、終盤で大同大学を捕え逆転で２連覇を飾りました。今年の岐阜清流国体に向け、地域の期待に応えられるチームへと確実に成長しており、国体後も地域に根差して強化されることを切に願っています。

順位決定戦も好ゲームが多く見られました。高校卒業選手のみでチームが構成されているトヨタ自動車は、昨年の第２回大会で１勝もあげることができず最下位でしたが、今回見事に立て直し５位に躍進。富山選抜は八光自動車に競り勝って８位、今後につながる価値ある１勝をあげました。HC 春日井も苦しみながら昨年よりひとつ順位を上げて７位。MKA 奈良は戦力が整わず苦しい戦いが続き 10 位に留まりました。愛知県のクラブリーグから参戦した同朋クラブは、勝利することは出来なかったが、試合を重ねるごとに前を狙う姿勢が強まり、得点力を向上させていきました。同朋クラブは、チームをもっと強く、もっと高いところを目指すため、思い切って挑戦してくれました。このように、現状に甘んじることなく、“変わろうとする意志” をもったクラブチームが増えていかなくては、社会人ハンドボールのレベルは衰退の一途を辿ることになります。

今年の１月に宮城県で開催した試合に足を運び、仙台から会場へ向かう途中で見た光景には、大震災からしばらくたった当時でも、いたる所にその爪跡が残っていました。それでも松島が堤防となり、被害を最小限に抑えたのだといいます。会場となった大郷の体育館では、地域やセントラル自動車の方々のご尽力によって試合が出来る環境が整い、地元の方々の応援で盛上る素晴らしい大会を開催することができました。セントラル自動車チームには、宮城県をはじめ東北地方の方々の大きな声援を受け、更に上のステージで活躍されることを期待しています。

今も尚、回復の兆しが見えてこない経済状況の中、我々社会人ハンドボール界に与えられた課題は少なくありません。この状況においても常に前進し、成長し続けることによって、学生や子どもたちに対し、魅力ある活躍の場を創造し、継承していくことをチャレンジディビジョンとしても最大の責務として取り組んでいきます。また、試合をする環境の強化、特にレフェリーの育成には力を注がなくてはなりません。そのためにチャレンジディビジョンは、育成の場を提供するだけではなく、自らレフェリーを生み出せるよう取り組んでいきます。

最後になりましたが、多くの方々のご協力に支えられ今大会を無事に終えることが出来ましたことに心から感謝申し上げます。まだまだ多くの課題を残しておりますが、皆様から寄せられるご期待に応えられるよう努めて参りますので、今後も暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

試合結果

【Aブロック】順位表

順位		岐阜	大同	トヨ	セン	春日	富山	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	ＨＣ岐阜	＼	28 ○ 26	25 ○ 23	25 ○ 22	23 ○ 11	28 ○ 21	5	5	0	0	129	103	26	10
2.	大同大学	26 ● 28	＼	33 ○ 18	27 ○ 23	24 ○ 22	32 ○ 23	5	4	0	1	142	114	28	8
3.	トヨタ自動車	23 ● 25	18 ● 33	＼	29 ● 30	26 ○ 20	34 ○ 32	5	2	0	3	130	140	-10	4
4.	セントラル自動車	22 ● 25	23 ● 27	30 ○ 29	＼	17 ● 18	28 ○ 24	5	2	0	3	120	123	-3	4
5.	ＨＣ春日井	11 ● 23	22 ● 24	20 ● 26	18 ○ 17	＼	24 ○ 23	5	2	0	3	95	113	-18	4
6.	TOYAMA 選抜	21 ● 28	23 ● 32	32 ● 34	24 ● 28	23 ● 24	＼	5	0	0	5	123	146	-23	0

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

【Bブロック】順位表

順位		Hond	大阪	八光	奈良	岐阜	同朋	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	Ｈｏｎｄａ	＼	27 ○ 20	37 ○ 33	43 ○ 18	25 ○ 9	40 ○ 10	5	5	0	0	172	90	82	10
2.	OSAKASELECTION	20 ● 27	＼	37 ○ 24	35 ○ 26	24 ○ 21	33 ○ 17	5	4	0	1	149	115	34	8
3.	八光自動車	33 ● 37	24 ● 37	＼	30 ○ 25	32 ○ 27	34 ○ 13	5	3	0	2	153	139	14	6
4.	ＨＣ・ＭＫＡ奈良	18 ● 43	26 ● 35	25 ● 30	＼	27 ○ 17	30 ○ 20	5	2	0	3	126	145	-19	4
5.	岐阜聖徳学園大学	9 ● 25	21 ● 24	27 ● 32	17 ● 27	＼	29 ○ 10	5	1	0	4	103	118	-15	2
6.	同朋クラブ	10 ● 40	17 ● 33	13 ● 34	20 ● 30	10 ● 29	＼	5	0	0	5	70	166	-96	0

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

▼順位決定トーナメント１回戦

トヨタ自動車　30 － 20　同朋クラブ
セントラル自動車　22 － 17　岐阜聖徳学園大学
HC 春日井　25 － 19　HC・MKA 奈良
TOYAMA 選抜　30 － 28　八光自動車

▼順位決定トーナメント２回戦

トヨタ自動車　28 － 26　HC 春日井
セントラル自動車　38 － 26　TOYAMA 選抜

▼順位決定トーナメント

HC・MKA 奈良　34 － 21　同朋クラブ
八光自動車　32 － 14　岐阜聖徳学園大学

▼ 11 － 12 位決定戦

岐阜聖徳学園大学　27 － 22　同朋クラブ

▼ 9 － 10 位決定戦

八光自動車　22 － 19　HC・MKA 奈良

▼ 7 － 8 位決定戦

HC 春日井　31 － 29　TOYAMA 選抜

▼ 5 － 6 位決定戦

トヨタ自動車　26 － 18　セントラル自動車

▼決勝トーナメント準決勝

HC 岐阜　31（18 － 10、13 － 14）24　OSAKA SELECTION
大同大学　25（13 － 11、12 － 13）24　Honda

▼ 3 位決定戦

Honda　21（11 － 7、10 － 12）19　OSAKA SELECTION

▼決勝

HC 岐阜　27（11 － 14、16 － 12）26　大同大学

～「日本の不思議」とは～

企画・広報委員
早川　文司

４年に１度、世界が最も注目する出来事がある。オリンピックと米大統領選挙である。大統領選挙はともかく、オリンピックはわが国でもテレビで連日放映されるし、新聞紙上でも大きなスペースを割いて報道されるから、スポーツファンだけでなく多くの人たちの関心を引く。

それだけに各競技団体にとっては、またとないアピールの場になる。出場するかしないかでは、その後４年間の注目度が違ってくることは間違いない。

それはともかく第36回日本リーグは男子が大同特殊鋼、女子はオムロンがいずれも15度目の優勝を飾り、頂点を奪回した。特に男子は延長にもつれ込む大接戦だった。ファンにとっては見逃せない戦いだったと言ってよかった。新しいシーズンもこのようは手に汗握る熱戦を見たい気持ちがいまだにしている。

その日本リーグのシーズン回顧をメイプルレッズの呉成玉監督と話していた時、彼女が言った言葉が気になった。

「日本の選手は突然“精いっぱいプレーしたから、もうやめます”や“結婚することになったからやめます”なんて言うんですよね。私には理解しにくいし、不思議な気がするんです」

ある年齢に達したりすると日本人選手は“引退”するし、ほとんどの選手は“結婚”を機にコートを去る。もう少し続ければいいのにと惜しまれての退部は“日本人の美徳”という一面があるのかもしれない。

だが、呉監督の指摘は別のことを指している。

「私は大学卒業後、将来の生活を考えて大学院に８カ月くらい在籍しました。でも、そこで勉学かオリンピックか大きな選択を迫られたんです。二兎は追えないからハンドボールの道を選びました」

その結果はご存じの方も多いと思うが、オリンピックや世界選手権で多くのメダルを獲得した。

韓国の選手は世界レベルの大会出場を目指し、スパルタ練習に耐え、励むという。お目当てはメダルの色によって違いはあるが「生涯年金」が支給されるからである。目の色を変えて、なんとかメンバーに入ろうと厳しい練習にも挑むのだそうだ。

「日本の選手は、たとえ優勝しても何も出ないでしょう。可哀そうですよ。だから、ある程度プレーしたら辞めていくんでしょうね。もったいない選手も多くいますよ」

せめて世界大会でメダルを獲得すれば「報奨金」制度を設けるなどの“ご褒美”は考えられないだろうか。選手寿命が延び、モチベーションが上がると思うのだけれど…。かつて言われた「アマチュアの奉仕精神」は現実には、とっくに合わなくなっていることは明白である。

第10回ハンドボールコーチング研究会

研究会代表　田中　守（福岡大学）

昨年度、研究会前日の３月 11 日に発生した東日本大震災により被災され、今なお大変な生活を強いられている多くの方々に心からお見舞い申し上げますとともに、１日も早い復興をお祈り申し上げます。会の初めに、お亡くなりになった多くの方々に対し参加者全員で黙祷を捧げました。

【第 10 回研究会総括】

今回、節目となる第 10 回目の研究会を実施することができました。一昨年より、一般発表の前に基調講演を行うようになり、今回は昨年度実現できなかった水上一先生（筑波大学名誉教授）による「オリンピック出場に向けて」と題した講演を改めてお願いしたところ、ご快諾いただきました。ロンドンオリンピック最終予選を直前に控えた今、なぜオリンピックなのか？の話題を最初に、1988 年のソウルオリンピックと 1992 年のバルセロナオリンピックに挑んだ女子日本代表チームコーチ歴７年間の取り組みを話して下さいました。その後、チームの進むべき方向性としての「ゲーム観」をもって「ゲーム構想」を提示することの重要性を説き、筑波大学監督として全日本インカレ 11 回の優勝、６回の準優勝の実績から、筑波大学の"アメーバーのような防御"を例に解説されました。最終的には、チームを勝たせることだけでなく「素晴らしい選手を育てること」が指導者の責務であると強調され、穏やかな口調ながら熱のこもった講演でした。

一般発表演題数も、例年の 10 演題前後から前回は 15 演題、今回は 17 演題を数え、参加者も約 50 名と益々活気を帯びてきた発表会でした。その内容は、技術・戦術研究が７演題、心理学・生理学研究が５演題、スポーツ医学研究２演題、その他ゴールキーパートレーニングやレフェリーに関する研究、ヨーロッパの指導者養成システムなど、非常に多岐に亘るものでした。

今回、事務局の栗山雅倫先生の提案で、新たな試みとして３演題ごとに座長を設け実施しました。６名の先生方の個性もあってとても和やかな雰囲気であるとともに、会を皆さんで運営している雰囲気が例年と異なって非常に新鮮で、好評と感じたしだいです。

最後のご挨拶で、初代代表の平岡秀雄先生が「コーチング研究は、Before・After の結果ではなく、成功も失敗も含めて何をしたかが大切なことで、本研究会はそれを発表して議論しあう場」と講評された言葉が印象的でした。

【今後の展望】

研究会の発足 10 年（2012 年）を迎えた今回、会の初めに「日本ハンドボール学会」設立へ向けた準備を進めることを公表しました。準備委員会の顧問に初代代表の平岡秀雄先生、代表に筑波大学の會田宏先生、委員に事務局の栗山雅倫先生、国立スポーツ科学センターの白井克佳先生、日本体育大学の辻昇一先生の５名で進めることになりました。従って、来年３月予定の次回を第１回日本ハンドボール学会大会とします。２年間の実績（必要条件）を経て、３年後には日本学術会議協力学術研究団体にも登録申請する計画です。

コーチング研究会から学会となることで、研究内容もこれまでのコーチング研究に加え、学校体育でのティーチング、トレーニング、レクリエーション研究など、そして基礎科学研究と非常に広範になります。指導研修のようなワークショップも加え、充実した学会大会になるよう検討しているとともに、日本体育協会公認スポーツ指導者資格の更新講習会としても利用できるようにすることから、現場に関わる多くの指導者の会員登録と参加も希望しています。

【現在の研究会組織】

代　　表：田中　守（福岡大学）
顧　　問：平岡秀雄（前代表・相談役・東海大学）
事務局長：栗山雅倫（東海大学）

第 10 回ハンドボールコーチング研究会

【基調講演】

「オリンピック出場に向けて」　水上　一（筑波大学名誉教授）

【一般研究発表演題】

1. ハンドボールにおける"戦術"の捉え方に関する比較検討
栗山雅倫、田村修治、花岡美智子（東海大学）、
辻　昇一（日本体育大学）、藤本　元（環太平洋大学）、
田口　隆（岐阜聖徳大学）
2. ヨーロッパにおける指導者養成システム
村松　誠（駒澤大学）
3. ハンドボール競技におけるサイドシュートの決定要因
—最終局面に着目して—
松木優也、中原啓伍、明石光史、丸井一誠、田中　守（福岡大学）
4. ハンドボール選手における下腿の痛みについて
花岡美智子、栗山雅倫（東海大学）
5. 暑熱下におけるハンドボール試合中の水分摂取に関する研究
明石光史、後藤慶大、田中　守（福岡大学）
6. ビデオ解析による膝靭帯損傷のメカニズム解明
小笠原一生、小柳好生、樫塚正一（武庫川女子大学）
7. ハンドボール選手の競技レベルにおける反応時間と
正確さの比較
田中佑梨奈（武庫川女子大学大学院）、
小笠原一生、樫塚正一（武庫川女子大学）
8. Proprioceptive Balance drills in Handball
ハンドボールにおける自己刺激感受バランスドリル
村松　誠（駒澤大学）他
9. 自律訓練を利用したメンタルサポートの一事例
～大学女子ハンドボール選手を対象として～
辻　昇一（日本体育大学）、栗山雅倫（東海大学）、
松井幸嗣（日本体育大学）
10. オランダハンドボールウィークにおける
ゴールキーパートレーニング
原　史織（筑波大学大学院）、
山田永子、河村レイ子、會田　宏（筑波大学）
11. ハンドボールにおけるシュート占有率と競技レベルの関係
—世界ジュニアと関東学生リーグの比較から—
齋藤亜里穂（東海大学大学院）、栗山雅倫（東海大学）
12. ハンドボールレフェリーの学びに役立つ自己評価シートと
その利用法の開発
田渕　舞（筑波大学大学院）
13. 大学女子トップチームにおける攻撃力および防御力の
評価基準の作成
—記述的ゲームパフォーマンス分析を用いて—
中原麻衣子（筑波大学大学院）、石野実加子（北國銀行）、
會田　宏（筑波大学）
14. ハンドボール７ｍスローにおける予測と阻止率について
—ゲーム理論を用いて—
櫻井恵志朗（国際武道大学大学院）、清水宣雄（国際武道大学）
15. 遠投距離からシュート・ボールスピードを推定する
山田一典、浦田達也（大阪体育大学）、
青木和浩、中丸信吾（順天堂大学）、金子勝司（大阪体育大学）
16. ハンドボールにおける基本プレイ・アルゴリズム構築に
関する研究
—攻撃方向の切換方法におけるパーツプレイの構築—
清水宣雄（国際武道大学）、東　俊介（大崎電気）
17. 左サイドと右サイドのシュートプレーは同じではない
—世界レベル、学生レベルの男子選手の比較から—
和田　拓（筑波大学大学院）、山口博之、會田　宏（筑波大学）

平成23年度日本コーチング学会大会 学会大会賞 受賞報告

筑波大学大学院　田渕　舞

今回平成23年度日本コーチング学会において、学会大会賞を図らずも受賞いたしました。この場で恐縮ではございますが、ご報告させていただきます。

日本コーチング学会は、スポーツの指導実践を対象として、実践現場において目標へ向け導いていくためのコーチングを研究していくという場であります。去る平成23年3月11日に起こった東日本大震災により、平成22年度の大会が見送りになりました。しかし、今年度は、無事に学会大会開催が決まり、一安心でした。

今回私が発表した研究は、「ハンドボールレフェリー」についてでした。現在まで、競技力向上のために、選手や指導者に関する研究が多くされてきましたが、現場のレフェリーに関するものは少ないのが現状です。しかし、コートの上に立って笛を吹いていると、競技力向上のためには、レフェリーの能力も向上していかなければならないのだと、常々感じます。ハンドボールは、選手と指導者だけで成立しているわけではなく、レフェリーもその構成要因の一つであると考えます。また、これに試合を見てくださる観客の方々も加わります。それぞれの立場から、ハンドボールの競技力向上をさらに考えなければならないと感じます。

私自身、日本ハンドボール協会公認A級審判員であります。レフェリーを始めて、7年目となりますが、まだまだ若輩者でありますので、勉強するべきことばかりの毎日です。レフェリーを始めてから今まで、レフェリーコースを受講し、それ以後も全国大会や各種大会にノミネートしていただき、様々な試合を吹かせていただきました。私の回りには、常に指導してくださる方がおり、とてもよい環境でレフェリー活動を行ってきたと思います。しかし、このような整った環境が常にあるとは限りません。全国では、指導してくれる人もいないまま、レフェリーをしている方も少なからずいると思われます。そのような状況下では、レフェリーのトレーニングを十分にすることはできないのではないでしょうか。また、レフェリング能力向上のためであるのに、1人でトレーニングを行っていくには何をしたらよいかわからないということや、わからないまま多くの時間を費やしてしまうといった、様々な問題が出てくるのではないでしょうか。そこで、レフェリーが各々で評価し、その評価から比較できるような目安となる基準があれば、もし指導をして下さる方がいない状況でも、レフェリング能力の向上に少しでも役立つのではないかと考え、この研究を始めるに至りました。

今回得られたことは、私の一見解であり、この研究の結果から得られたことが、実際の現場で役に立っていくかということは、これから検証していかなくてはなりません。まだこの研究においてやるべきことは山積みでありますが、レフェリーの研究をしていくことは意義があることだと思っております。

私が現在レフェリー活動を行っていられるのは、ご指導いただいた先生方、また、アドバイスを下さり、時に厳しい言葉をかけていただいた全国の先輩レフェリーの皆様、とことんハンドボールについて語り合ったレフェリー仲間の皆さん、試合を通して様々なことを学ぶ機会を下さった選手・指導者の方々があってこそだと思っております。

この研究にあたり、植村審判長はじめ、審判審査委員会の皆様に、大変お世話になりました。また、震災後の大変な状況の中、調査に協力していただいた全国のレフェリーの皆様に、この場を借りて感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

最後になりますが、今回、学会大会賞をいただきましたが、これがゴールではないと思います。またスタートに立ち、さらなるハンドボール競技の発展に寄与できるよう、精進していきたいと思っております。

ライセンスレベルの異なるハンドボールレフェリーによる試合中の行動規範に関する特徴

―昇級審査採点用紙に基づいた自己評価に着目して―

田渕　舞（筑波大学大学院）　苅山　靖（筑波大学大学院）　図子浩二（筑波大学）

【緒言】

スポーツパフォーマンスは、主にプレイヤーとそれを指導するコーチによって決定される。しかし、試合を良好に進行させるためには、優れたレフェリーによる正しく適切な判定が必要不可欠になる。優れたスポーツパフォーマンスを発揮させて試合の質を上げることは、プレイヤー、指導者、レフェリーの三者のコラボレーションによってなされるものである。したがって、レフェリーを対象とした研究が極めて重要になるものの、その数は極めて少なく、活発に実施されているとは言い難い状況にある[1) 2) 3)]。その理由の一つに、スポーツ科学の実践領域には、プレイヤーやコーチを対象とした領域しか存在しないことがあげられる。したがって、トレーニング学やコーチング学という領域に加えて、レフェリング能力の向上に役立つ知識や知恵を集積していくためには、レフェリー学という領域を確立していく必要があるのではないかと思われる。

一方、ハンドボールは多くの球技スポーツの中でも、最もスピーディーなものとして位置づけられている[4)]。また、近年ではルール改正や戦術変化に伴って、加速度的にスピード化が進行している。このようなハンドボールゲームの変化に対応するためには、レフェリーはより高度なスキルや行動規

範を必要とするようになることが考えられる。レフェリング能力を向上させるためには、各種の試合においてレフェリングを実施し、それを評価するとともに、評価を反映させたトレーニングを行い、再び試合に臨むという一連のサイクルを繰り返すことが有益である。また、ハンドボールのレフェリーは、他者から試合の評価が得られることは極めて少なく、自己観察的な評価が中心になっているのが現状であるが、これに関する明確な視点や観点は存在しない。

そこで本研究では、ハンドボールレフェリーにおけるＡ級からＤ級までの現役レフェリーを対象にして、レフェリーに要求される各種の判定能力・スキル、倫理・哲学などの行動規範を主観的に判断できる調査用紙を作成し、ライセンスの違いによる特性とそのレベルについて明らかにした。また、Ａ級からＤ級までのライセンスにおける各項目の基準得点を設定するとともに、レフェリーが学びに利用できる自己評価シートおよび自己評価フィードバックシートを作成して、その利用法を提案することにした。

【方法】

１．調査対象・調査期間・データ収集方法

平成 23 年度都道府県審判講習会参加者を対象として質問紙調査を依頼し、そのうちの 32 都道府県、600 人から回答が得られた。調査期間は平成 23 年２月から平成 23 年６月であり、分析対象は回収された 600 人のうち、記入漏れや空欄のあった 75 人を除く 525 人とした（有効回答率 87.5 %）。対象者のライセンス内訳は、Ａ級 108 人、Ｂ級 115 人、Ｃ級 130 人、Ｄ級 172 人であった。

対象者には無記名自記式調査票に記入してもらい、回答直後に回収した。対象者には、調査内容の趣旨、個人的な情報は公表しないことを伝えるとともに、調査用紙の回収をもって調査に同意がえられたこととした。

２．調査項目とカテゴリ分け・算出項目

調査項目は、日本ハンドボール協会の昇級審査で、実際に使用されている昇級審査用紙（DEREGATE'S REPORT ON REFEREES JAPAN HANDBALL ASSOCIATION）をもとにして作成した（表１）。

調査項目は計 58 問からなり、審査用紙と同じく、大きく３つのグループと、12 のサブカテゴリとに分類された。各調査項目には、５件法を用いて、「適切にできる」を５点、「どちらかといえば適切にできる」を４点、「どちらともいえない」を３点、「あまり適切にできない」を２点、「適切にできない」を１点とし、普段自分自身が、最も多く担当している競技レベルの試合を思い浮かべてもらい、自己評価として選択させた。調査用紙回収後、各サブカテゴリの得点を、そのサブカテゴリの合計得点で除すことで、得点率を算出した。さらに、その得点率をもとに、各ライセンス内でサブカテゴリの順位を算出した。

３．統計処理

各調査項目は平均値±標準偏差で示した。本研究では、各ライセンスの平均値の差を検定するために一元配置分散分析

表１　調査項目と分類

カテゴリ		質問			
Ⅰ判定	1　ゲームの流れとアドバンテージ	1-1 1-2 1-3	ゲームの流れに合った判定をする。 ゲームの流れを理解する。 明らかな得点チャンス時に、アドバンテージを観察する。	1-4 1-5 1-6	アドバンテージの観察中、OF・DFを正しく評価し、必要であれば罰則を与える。 ルールにのっとったアドバンテージの観察、判定をする。 両チームへのアドバンテージのバランスが取れている。
	2　攻撃側の反則	2-1 2-2	OFでボールを持っているプレーヤーの反則を判定する。 ボールを持っていないOFプレーヤーの反則を判定する。	2-3 2-4	シュミレーションの判定(OF・DF含む)をする。 DFの間を無理矢理突破しようとする、強引なプレーを判定する。
	3　段階罰	3-1 3-2	許容範囲のハードプレーと、許容範囲外のラフプレーを区別し判定する。 スポーツマンシップに反するものに対して、段階罰を判定する。	3-3 3-4	罰則を両チームに対し、よいバランスで判定する。 2分間退場の判定をする。
	4　オーバーステップ	4-1 4-2	オーバーステップの判定をする。 シュート時のオーバーステップを判定する。		
	5　ゴールエリアへの侵入	5-1 5-2 5-3	ボールを持ったOFプレーヤーのゴールエリア内侵入について判定をする。 シュート時における、OFプレーヤーのゴールエリアへの侵入(着地・ラインクロス・スカイプレイ等)の判定をする。 シュート時以外での、OFプレーヤーのゴールエリア内侵入について判定をする。	5-4 5-5	ボールを持たないOFプレーヤーのゴールエリアライン内妨害の判定をする。 DFプレーヤーのゴールエリア内への頻繁な侵入に対して、スポーツマンシップに反する判定を適用する。
	6　7mスロー	6-1 6-2	一般的な(シュート時のハッキング、罰則を伴わない接触 等)7mスローを判定する。 プレーイングエリア内での、明らかな得点チャンスの妨害による7mスローを判定する。	6-3	ゴールエリア内への、DFプレーヤーの侵入による7mスローを判定する。
	7　パッシブプレー	7-1 7-2	パッシブプレーの予告ジェスチャーを、タイミングよく出す。 パッシブプレーの判定をする。		
	8　各種スローの正しい実行 3mの距離 何のスローを与えるべきか	8-1 8-2	フリースローのポイントを把握し、位置を観察する。 フリースローのポイントから3mの距離の観察をする。	8-3 8-4	各種スローの実施において、正しい実施の仕方で再開されるか観察する。 フリースロー・スローインの判定をする。
	9　タイムアウト / ドリブル キック / オーバータイム	9-1 9-2	レフェリータイムアウトの判断をする。 オーバータイムの判定をする。	9-3 9-4	ダブルドリブルの判定をする。 キックボールの判定をする。
Ⅱ運営・管理	10　性格/態度/雰囲気	10-1 10-2 10-3 10-4 10-5 10-6	平常心で試合に臨む。 プレーヤーに対し、落ち着いた態度で向き合う。 必要に応じて、チームスタッフや選手と話をする。 試合中周りからのヤジや批判に影響されず判定する。 弁解や妥協をせずに判定する。 試合中、集中力を保つ。	10-7 10-8 10-9 10-10 10-11	ベンチ管理をする。 役員や選手のアピールや、観客の反応(野次 等)に冷静に対応する。 ハンドボールのDFシステムを理解する。 ハンドボールのOFシステムを理解する。 試合に目標を持って臨む。
	11　協調性/位置取り/ジェスチャー	11-1 11-2 11-3 11-4	吹笛の音量・音色を使い分ける。 はっきりしたジェスチャーをする。 1人のレフェリーが支配することなく、レフェリー2人が同等な立場でレフェリングを行う。 ペアレフェリーとの間の、責任範囲を明確にする。	11-5 11-6 11-7 11-8	オフィシャルと協力する。 ペアレフェリーとチームワークよく、試合の運営をする。 試合中、矛盾のない判定をする。 CR・GRで事象がよく見える位置取りをする。(サイドチェンジを含む)
Ⅲ倫理	12　全体の印象	12-1 12-2 12-3	試合中、感情の起伏なく安定した態度で臨む。 両チームに対し公平な態度をとる。 プレーへの介入の際、よいタイミングで笛を吹く。	12-4 12-5	自分自身の判定基準で判定する。 1試合通して同じ基準で判定する。

を用い、Ｆ値が有意であった項目には Tukey 法を用いて多重比較を行なった。また、各ライセンス間の 12 サブカテゴリの一致度をスピアマンの順位相関係数を用いて算出した。これらの統計処理には、SPSS Statistics 19.0 for Windows を用いた。なお、有意性は危険率を５％未満で判定した。

【結果および考察】

１．ライセンスレベル間の比較からみたレフェリングに重要な資質およびスキルの相違

表２は、ライセンス別にみた各項目の得点をライセンス毎に比較したものである。質問全体、３グループ、および 12 サブカテゴリのすべてにおいて、Ａ級は他のライセンスと比較して有意に高い値を示した。また、Ｂ級はＡ級より低いものの、Ｃ級およびＤ級に比べると有意に高い値を示した。Ｃ級とＤ級の間に有意な差が認められなかったものもあったが、一般的にはＣ級がＤ級よりも有意に高い値を示す傾向にあった。

以上の結果から、本研究で作成した調査用紙を用いたテストは、ライセンスレベルの序列を適切に評価できており、この用紙を用いた自己評価は、ハンドボールレフェリーが自ら

表2　ライセンス別にみた得点と
　　　ライセンス間の比較

質問全体	級	平均値	有意差
58問	A	248.22 ± 26.8	A＞B＞C,D
	B	224.30 ± 30.0	
	C	203.05 ± 29.4	
	D	194.85 ± 29.2	

3つのグループ	級	平均値	有意差
Ⅰ．判定	A	146.50 ± 15.8	A＞B＞C＞D
	B	133.05 ± 17.3	
	C	120.78 ± 17.2	
	D	115.51 ± 17.2	
Ⅱ．運営・管理	A	80.57 ± 9.3	A＞B＞C,D
	B	72.39 ± 10.6	
	C	64.95 ± 10.3	
	D	62.51 ± 10.2	
Ⅲ．倫理	A	21.15 ± 2.6	A＞B＞C,D
	B	18.85 ± 3.0	
	C	17.32 ± 2.9	
	D	16.84 ± 2.9	

12サブカテゴリ	級	平均値±50	有意差
1．ゲームの流れとアドバンテージ	A	25.73 ± 3.13	A＞B＞C,D
	B	23.06 ± 3.47	
	C	20.58 ± 3.83	
	D	19.62 ± 3.66	
2．攻撃側の反則	A	16.57 ± 2.21	A＞B＞C,D
	B	14.78 ± 2.41	
	C	12.95 ± 2.35	
	D	12.42 ± 2.41	
3．段階罰	A	16.94 ± 2.17	A＞B＞C,D
	B	15.18 ± 2.27	
	C	13.48 ± 2.54	
	D	12.78 ± 2.56	
4．オーバーステップ	A	7.78 ± 1.39	A＞B＞C,D
	B	7.02 ± 1.51	
	C	6.34 ± 1.58	
	D	6.44 ± 1.65	
5．ゴールエリアへの侵入	A	21.85 ± 2.66	A＞B＞C＞D
	B	19.90 ± 2.90	
	C	18.17 ± 2.90	
	D	16.98 ± 2.93	
6．7mスロー	A	12.96 ± 1.63	A＞B＞C＞D
	B	11.99 ± 1.68	
	C	10.99 ± 1.88	
	D	10.42 ± 2.05	
7．パッシブプレイ	A	8.59 ± 1.12	A＞B＞C＞D
	B	7.77 ± 1.27	
	C	7.30 ± 1.33	
	D	6.83 ± 1.41	
8．各種スローの正しい実行・3mの距離・何のスローを与えるか	A	18.14 ± 1.86	A＞B＞C,D
	B	16.75 ± 2.18	
	C	15.69 ± 2.00	
	D	15.27 ± 2.10	
9．タイムアウト・ドリブル・キック・オーバータイム	A	17.93 ± 1.74	A＞B＞C,D
	B	16.60 ± 2.16	
	C	15.26 ± 2.07	
	D	14.75 ± 2.17	
10．性格・態度・雰囲気	A	45.90 ± 5.66	A＞B＞C,D
	B	41.32 ± 6.58	
	C	36.99 ± 6.31	
	D	36.08 ± 6.10	
11．協調性・位置取り・ジェスチャー	A	34.68 ± 4.04	A＞B＞C＞D
	B	31.07 ± 4.38	
	C	27.96 ± 4.50	
	D	26.42 ± 4.72	
12．全体の印象	A	21.15 ± 2.56	A＞B＞C,D
	B	18.85 ± 3.04	
	C	17.32 ± 2.92	
	D	16.84 ± 2.94	

＞：$p<0.05$

のスキル・資質を評価するための有益な知見になることが認められた。なお、ライセンスごとに得られた調査項目における平均値は、個人の能力を把握する基準値、すなわち目安となるとともに、貴重な判断材料になるものと考えられる。

2．各ライセンス別にみた得点順位

図1は、各ライセンスレベルにおける12サブカテゴリそれぞれの得点率を算出し、ライセンス別に12サブカテゴリの順位と得点率の位置づけを示したものである。上級ライセンスほど12カテゴリの得点率の平均値は高く、それぞれのカテゴリにおいても得点率は高い値であった。その最高値はA級で90.8%であり、D級では76.3%となったが、この値はA級における最も低い値（77.8%）よりも低かった。これらのことから、D級レフェリーからA級レフェリーへと、レフェリーのライセンスを向上していくためには、すべてのサブカテゴリによる項目の得点の向上が不可欠であり、そのためには、下位の項目が何であるのかを十分に把握するとともに、それに重点を置いたトレーニングを行い、試合で実践していくことが重要になると考えられる。

図1の結果は、各ライセンス内の得点率の序列が類似していることを示すものである。また、このことをスピアマンの順位相関係数を用いて検討した結果、各ライセンスのすべての順位に関する組合せにおいて、有意に高い相関関係が認められた（rs=0.818－0.965、$p<0.001$）。これらの結果を考慮すると、ライセンスレベルに関わらず、12サブカテゴリの得点順位の傾向は類似しており、どのライセンスについても、12サブカテゴリの順序性や難易度の内容は同じであることが示された。

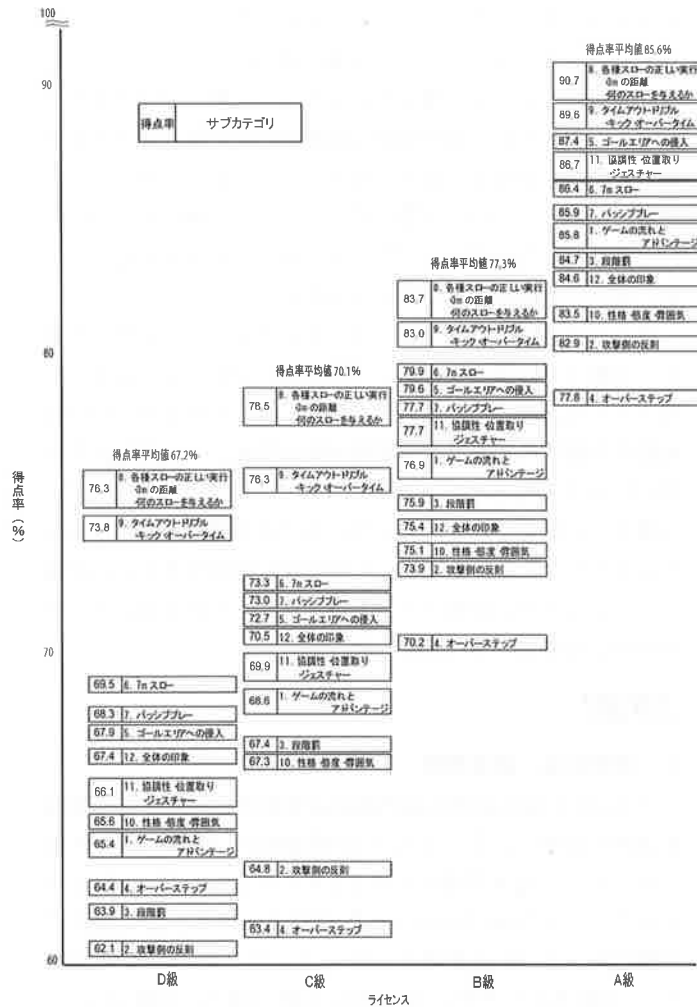



図1　ライセンス別にみた12サブカテゴリの順位と得点率の位置づけ

3．自己評価シートを用いた試合の評価と診断

レフェリーが試合後のレフェリングに関する内容を評価する場合に、これまでは評価基準がなく、自分で実施する主観的な評価が正しいのかどうかの判断が難しい状況にあった。しかし、本研究で作成した調査用紙による自己評価（図2）を行うことによって、試合におけるレフェリングの結果を容易に観察できるとともに、本研究で明らかにした各ライセンスの平均得点と比較することによって、レフェリング能力を高めるための問題点や課題について明確化できると考えられる。具体的な使用手順を例にあげると、次のようになる。試合前に、試合に関する情報を表上に記入し、目標を立案する。そして、試合後には表左に書かれている58の質問に対して、1～5点で評価し、それぞれの合計点を算出し記入する。そして、各カテゴリ別の基準得点と自身の得点とを比較することによって、現状を把握するとともに、次のステップに進むための課題が設定できると考えられる。一方、レフェリーの指導場面では、この自己評価シートを提示させることによって、指導したいレフェリーの現状がよく理解できるようになり、効果的な指導が可能になると考えられる。

本研究では、調査用紙による自己評価をもとにしたフィードバックシートも作成した（図3）。

自己評価フィードバックシートは、各試合のレフェリング

自 己 評 価 シ ー ト

氏名　○○ ○○
P.Ref.　○○　○
チーム名 ○○大　24 [12 — 9 / 14 — 13] 22　チーム名 □□大
平成　○○年　○月　○日
大会名　○○春季大会
目標：　ゲームの流れを切らないように，よく観察しながら判定する。
回戦・リーグ戦（男・女）

カテゴリ		#	質問内容	点数	合計	
Ⅰ 判定	1. ゲームの流れとアドバンテージ	Q1	ゲームの流れに合った判定をする。	4	24	・プレイが続いていたのに早く笛を吹いてしまった。もう少し我慢が必要。
		Q2	ゲームの流れを理解する。	4		
		Q3	明らかな得点チャンス時に、アドバンテージを観察する。	4		
		Q4	アドバンテージの観察中，OF・DFを正しく評価し，必要であれば罰則を与える。	4		
		Q5	ルールにのっとったアドバンテージの観察，判定をする。	4		
		Q6	両チームへのアドバンテージのバランスが取れている。	4		
	2. 攻撃側の反則	Q7	OFでボールを持っているプレーヤーの反則を判定する。	5	16	・シュミレーションのプレイを見抜けなかった。見る位置が悪い。要研究。
		Q8	ボールを持っていないOFプレーヤーの反則を判定する。	4		
		Q9	シュミレーションの判定(OF・DF含む)をする。	3		
		Q10	DFの間を無理矢理突破しようとする，強引なプレーを判定する。	4		
	3. 段階罰	Q11	許容範囲のハードプレーと，許容範囲外のラフプレーを区別し判定する。	3	15	・ラフプレイを許してしまったところがあった。ハードプレイとの見極めをする。
		Q12	スポーツマンシップに反するものに対して，段階罰を判定する。	4		
		Q13	罰則を両チームに対し，よいバランスで判定する。	4		
		Q14	2分間退場の判定をする。	4		
	4. オーバーステップ	Q15	オーバーステップの判定をする。	5	10	・Good
		Q16	シュート時のオーバーステップを判定する。	5		
	5. ゴールエリアへの侵入	Q17	ボールを持ったOFプレーヤーのゴールエリア内侵入について判定をする。	4	19	・○○さんに，DFがエリアラインの中を使うプレイについて見逃している事が多いと言われた。ポストとの競り合い，カットインの時，特に注意して見る。
		Q18	[illegible]	4		
		Q19	シュート時以外での，OFプレーヤーのゴールエリア内侵入について判定をする。	4		
		Q20	ボールを持たないOFプレーヤーのゴールエリアライン内侵入の判定をする。	4		
		Q21	[illegible]	3		
	6. 7mスロー	Q22	一般的なシュート時のハッキング，罰則を伴わない接触等7mスローを判定する。	4	11	・DFがエリアラインを使っているプレイについて，もっとよく観察する。
		Q23	プレーイングエリア内での，明らかな得点チャンスの妨害による7mスローを判定する。	4		
		Q24	ゴールエリア内への，DFプレーヤーの侵入による7mスローを判定する。	3		
	7. パッシブプレイ	Q25	パッシブプレーの予告ジェスチャーを，タイミングよく出す。	5	10	・ジェスチャーをもっと指先まで格好良く。
		Q26	パッシブプレーの判定をする。	5		
	8. 各種スローの正しい実行 3mの距離 何のスローを与えるか	Q27	フリースローのポイントを把握し，位置を観察する。	5	20	・何度も3m確保の指示をしなくてもいいように一度目の注意でプレイヤー全員にわかるように，第一声をつかう。
		Q28	フリースローのポイントから3mの距離の観察をする。	5		
		Q29	各種スローの実施において，正しい実施の仕方で再開されるか観察する。	5		
		Q30	フリースロー・スローインの判定をする。	5		
	9. タイムアウト ドリブル キック オーバータイム	Q31	レフェリータイムアウトの判断をする。	5	19	・パスを送った時のオーバータイムの判定 笛のタイミングが悪い。
		Q32	オーバータイムの判定をする。	4		
		Q33	ダブルドリブルの判定をする。	5		
		Q34	キックボールの判定をする。	5		
Ⅱ 運営・管理	10. 性格 態度 雰囲気	Q35	平常心で試合に臨む。	4	49	・ベンチ脇まで監督が出てきて指示していたものに関して，GRと協力して観察し注意する。
		Q36	プレーヤーに対し，落ち着いた態度で向き合う。	4		
		Q37	必要に応じて，チームスタッフや選手と話をする。	5		
		Q38	試合中周りからのヤジや批判に影響されず判定する。	4		
		Q39	弁解や妥協をせずに判定する。	5		
		Q40	試合中，集中力を保つ。	4		
		Q41	ベンチ管理をする。	4		
		Q42	役員や選手のアピールや，観客の反応(野次等)に冷静に対応する。	4		
		Q43	ハンドボールのDFシステムを理解する。	5		
		Q44	ハンドボールのOFシステムを理解する。	5		
		Q45	試合に目標を持って臨む。	5		
	11. 協調性 位置取り ジェスチャー	Q46	吹笛の音量・音色を使い分ける。	5	38	・エリアライン際の接触をみる位置取りが悪い。見る位置をいろいろ変えて研究する。
		Q47	はっきりしたジェスチャーをする。	5		
		Q48	1人のレフェリーが主導することなく，レフェリー2人が対等な立場でレフェリングを行う。	5		
		Q49	ペアレフェリーとの間の，責任範囲を明確にする。	5		
		Q50	オフィシャルと協力する。	5		
		Q51	ペアレフェリーとチームワークよく，試合の運営をする。	5		
		Q52	試合中，矛盾のない判定をする。	4		
		Q53	CR・GRで事象がよく見える位置取りをする。(サイドチェンジを含む)	4		
Ⅲ 倫理	12. 全体の印象	Q54	試合中，感情の起伏なく安定した態度で臨む。	4	20	・プレイへの介入の笛，全体的に遅い。プレイを見すぎなので，予測しながら介入できるようにする。
		Q55	両チームに対し公平な態度をとる。	4		
		Q56	プレーへの介入の際，よいタイミングで笛を吹く。	4		
		Q57	自分自身の判定基準で判定する。	4		
		Q58	1試合通して同じ基準で判定する。	4		

Ⅰ合計	Ⅱ合計	Ⅲ合計	合計
144	87	20	251

得点の目安

グループ	Ⅰ．判定									Ⅱ．運営・管理		Ⅲ．倫理	Ⅰ合計	Ⅱ合計	Ⅲ合計	Total
カテゴリ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
A級	25.7	16.6	16.8	7.8	21.9	13.0	8.6	18.1	17.0	45.9	34.7	21.1	146.5	80.6	21.1	248.2
B級	23.1	14.8	15.2	7.5	19.9	12.0	7.8	16.7	16.6	41.3	31.1	18.9	133.1	72.4	18.9	224.3
C級	20.6	13.0	13.5	6.3	18.2	11.0	7.3	15.7	15.3	37.0	28.0	17.6	120.8	65.0	17.6	203.1
D級	19.8	12.4	12.8	6.4	17.0	10.4	6.8	15.3	14.8	36.1	26.4	16.6	115.5	62.5	16.6	194.9

図２　自己評価シート 記入例

結果を縦断的に評価し、視覚的にその発達経緯を捉えることができるものである。自己評価シートによる得点を記入し、目盛線上に得点をプロットすると、複数試合の得点を同時に記録することができる。したがって、過去と現在の比較を行うことができるとともに、レフェリング能力の発達やばらつき具合を視覚的に判断でき、自身の成長を確認することができる。さらに、優れたレフェリーのものが蓄積されれば、今後、若いレフェリーのために有益な知見となることが視察できる。

自己評価 フィードバックシート　No.1

氏名　○○ ○○

5/1 ———　5/7 - - - -　5/8 ……

カテゴリ	5/1 ○○大 vs □□大	5/7 ××高校 vs △△高校	5/8 ●●クラブ vs ■■クラブ
1. ゲームの流れとアドバンテージ	24	21	28
2. 攻撃側の反則	16	15	18
3. 段階罰	15	17	16
4. オーバーステップ	10	6	9
5. ゴールエリアへの侵入	19	23	24
6. 7mスロー	11	14	15
7. パッシブプレー	10	8	10
8. 各種スローの正しい実行 3mの距離 何のスローを与えるか	20	19	20
9. タイムアウト/ドリブル キック/オーバータイム	19	20	19
10. 性格/態度/雰囲気	49	43	50
11. 協調/位置取り/ジェスチャー	38	37	39
12. 全体の印象	20	19	21
総計点	247	242	269

MEMO（5/1）
・エリアライン際の判定が悪かった。もっとジェスチャーをはっきりと，きれいにすることを心がける。

MEMO（5/7）
・試合を通して悪いところばかり出てしまった。オーバーステップの基準が定まらず，それが原因で他にも影響が出た。試合中に切替えること。

MEMO（5/8）
・昨日の反省をいかして，吹笛することができた。ペアとのコンタクトがしっかり取れて，運営がスムーズだった。これが維持できるようにする。

図３　自己評価フィードバックシート 記入例

【結論】

本研究では、ハンドボールレフェリーが各種の判定能力・スキル、倫理・哲学を主観的に判断した際のライセンスごとの基準値を設定することができた。また、ライセンスの違いに限らず、共通して難易度の高い行動や思考があることが明らかになった。また、レフェリーの学びに利用できる自己評価シートおよび自己評価フィードバックシートを作成するとともに、本研究で明らかにした基準値やライセンスごとの現状を考慮した利用方法を提案した。これらの知見は、これからの日本ハンドボール競技の発展に関して、レフェリーの資質向上という観点から有益になるものである。

【参考文献】

1）清水宣雄（2010）ハンドボールにおけるプレイアルゴリズム構築に関する研究―レフェリングのコンセプト―．ハンドボール研究（12）：110-119.
2）高野亮（1974）ハンドボール競技におけるレフェリーに関する研究．東京女子体育大学紀要 9：65-75.
3）岡本研二・清水宣雄・北村善雄（1997）ハンドボール競技におけるレフェリー体制の現状と問題点―平成８年度日本協会登録の分析から―．茨城大学教育学部紀要 教育科学（46）：137-144.
4）江成元伸（2002）ハンドボール競技の健全化を目指しての一考察。昭和薬科大学紀要（36）：1-15.

日本協会創立75周年記念誌編集委員会より

すでにご承知のこととは存じますが、来年2月2日に日本ハンドボール協会は創立75周年を迎えます。これを契機に創立75周年記念誌を作成することとなり、編集委員会を組織し、15回の会議を持ちその概要もほぼ固まってきました。今年度は、具体的な作業を進める段階となっています。加盟団体等の歩みにつきましては、すでに多くの団体から原稿を戴きました。この場をお借りしまして、御礼申し上げます。今後編集作業を進めてまいります。

日本ハンドボール協会は、創立50年を機に「日本ハンドボール史」としてその歴史を876頁の大書として纏めています。大谷武一氏がハンドボールを日本に紹介してからの、諸先輩方の活動の記録として貴重な資料となっております。都道府県協会も国体を契機として、昭和41年には47都道府県が出揃いましたが、その活気が語られています。

しかしながら、50年史に掘り起こせなかった歴史、諸先輩方からの記載間違いの指摘、また、新しい視点からの歴史などがあります。にもかかわらず、パイオニアの多くの方々はすでに亡くなられています。すでに歴史の証人は少なくなっており、残念なことに今回の活動の間にも、活躍された先輩方の訃報を耳にしております。今回は4分の3世紀と言う節目での記念誌作成ですが、今後どの時点で歴史を纏める作業が行われるかは分かりません。その様な状況ですが、次の企画が練られる時期には、日本のハンドボールを築いてこられた方々の証言は得られないこととなるでしょう。今この時期に日本ハンドボールの精神を残せるものは残さないと、永遠に埋もれてしまうと考えています。

今後委員会では具体的な編集作業に入って行きますが、これまでに議論されたいろいろな企画もまだ議論中のものもあります。しかしながら、物理的な限界から実行できないものがあることは残念です。特に、女性のために始められたと言われるハンドボールですが、競技生活を終わられた後家庭に入られたり、ハンドボール活動と縁遠くなったりで、委員会としてはアクセスしにくい状況が惜しまれます。もっとＯＢ・ＯＧを大切にしなくてはならないのではないでしょうか。時間的な余裕は無くなってきましたが、出来る限り女性に関する歴史も取り上げたいと考えておりますので、少しでも女性に関する情報を委員会にご連絡いただければと思います。

出来上がりました75周年記念誌は、原価での頒布も計画されています。また、制作システムから多くの方々にご協力いただければ、原価は下げることができます。是非とも多くの方々に目を通して戴き、これからのハンドボール発展のための一資源となればと願っております。

スコアルーム

第35回全国高等学校選抜大会

開催期日：2012年3月25日(日)～30日(金)
会　場：岩手県・花巻市総合体育館ほか

【男子】

▼1回戦

大阪体大浪商(大阪)	33(14－6、19－11)17	富士(静岡)
熊本国府(熊本)	31(14－13、9－10)28	横浜創学館(神奈川)
	(5－2　延長　3－3)	
洛北(京都)	28(12－13、16－11)24	川口東(埼玉)
四日市工業(三重)	37(15－15、22－15)30	寺井(石川)
紀北農芸(和歌山)	28(14－11、14－13)24	福島工業(福島)
法政大第二(神奈川)	26(13－8、13－13)21	札幌月寒(北海道)
明星(東京)	38(19－14、19－14)28	総社(岡山)
小林秀峰(宮崎)	33(18－15、15－5)20	盛岡第一(岩手)

▼2回戦

興南(沖縄)	24(12－9、12－8)17	大阪体大浪商(大阪)
松山工業(愛媛)	36(12－12、24－10)22	國學院栃木(栃木)
不来方(岩手)	34(18－9、16－21)30	氷見(富山)
熊本国府(熊本)	56(32－8、24－12)20	釧路商業(北海道)
高山西(岐阜)	27(15－8、12－9)17	洛北(京都)
瓊浦(長崎)	25(13－5、12－14)19	聖和学園(宮城)
下松工業(山口)	34(18－13、16－17)30	市川(千葉)
藤代紫水(茨城)	34(17－14、17－13)27	四日市工業(三重)
岩国工業(山口)	31(19－7、12－8)15	紀北農芸(和歌山)
大同大大同(愛知)	26(12－15、14－9)24	富岡(群馬)
長崎日本大学(長崎)	29(13－13、16－13)26	湯沢(秋田)
法政大第二(神奈川)	32(14－17、18－10)27	香川中央(香川)
桃山学院(大阪)	44(21－12、23－14)26	明星(東京)
北陸(福井)	35(17－13、18－21)34	大分雄城台(大分)
神戸国際大附属(兵庫)	29(11－14、18－12)26	岐阜商業(岐阜)
浦和学院(埼玉)	26(14－8、12－15)23	小林秀峰(宮崎)

▼3回戦

興南(沖縄)	29(16－9、13－12)21	松山工業(愛媛)
不来方(岩手)	32(20－16、12－15)31	熊本国府(熊本)
高山西(岐阜)	32(13－10、19－14)24	瓊浦(長崎)
藤代紫水(茨城)	28(15－10、13－14)24	下松工業(山口)
岩国工業(山口)	26(16－9、10－10)19	大同大大同(愛知)
長崎日本大学(長崎)	31(10－14、17－13)30	法政大第二(神奈川)
	(2－1　延長　2－2)	
北陸(福井)	40(20－17、20－19)36	桃山学院(大阪)
浦和学院(埼玉)	38(19－12、19－17)29	神戸国際大附属(兵庫)

▼準々決勝

不来方(岩手)	34(16－18、18－12)30	興南(沖縄)
藤代紫水(茨城)	32(15－14、17－15)29	高山西(岐阜)
岩国工業(山口)	23(12－6、11－15)21	長崎日本大学(長崎)
北陸(福井)	38(22－15、16－21)36	浦和学院(埼玉)

▼準決勝

不来方(岩手)	36(16－12、20－14)26	藤代紫水(茨城)
北陸(福井)	38(20－14、18－17)31	岩国工業(山口)

▼決勝

北陸(福井)	37(18－20、19－16)36	不来方(岩手)

【女子】

▼1回戦

福井商業(福井)	22(10－5、12－6)11	駿台甲府(山梨)
筑紫女学園(福岡)	24(12－8、12－8)16	盛岡南(岩手)
大分鶴崎(大分)	22(8－4、14－4)8	和歌山商業(和歌山)
高岡向陵(富山)	27(10－13、17－9)22	那覇西(沖縄)
星城(愛知)	30(14－12、16－12)24	高水(山口)
氷見(富山)	38(16－12、22－10)22	湯沢(秋田)
明石(兵庫)	25(12－12、10－10)24	岐阜商業(岐阜)
	(2－2　延長　1－0)	
浦和実業学園(埼玉)	32(17－11、15－16)27	倉敷天城(岡山)

▼2回戦

華陵(山口)	34(17－8、17－4)12	福井商業(福井)
大曲農業(秋田)	32(15－14、17－12)26	立命館守山(滋賀)
白梅学園(東京)	20(5－7、15－8)15	高松商業(香川)
飛騨高山(岐阜)	31(19－9、12－7)16	筑紫女学園(福岡)
大分鶴崎(大分)	29(15－4、14－6)10	札幌月寒(北海道)
川和(神奈川)	30(16－10、14－9)19	光南(福島)
名古屋経済大市邨(愛知)	24(13－12、11－7)19	玉野光南(岡山)
埼玉栄(埼玉)	23(10－12、13－8)20	高岡向陵(富山)
洛北(京都)	26(12－14、14－6)20	星城(愛知)
昭和学院(千葉)	31(15－9、16－8)17	今治東中等教育学校(愛媛)
四天王寺(大阪)	29(16－9、13－10)19	水海道第二(茨城)
陽明(沖縄)	28(12－8、16－13)21	氷見(富山)
不来方(岩手)	24(9－12、15－10)22	明石(兵庫)
佼成学園女子(東京)	26(12－7、14－10)17	佐世保商業(長崎)
暁(三重)	27(14－3、13－3)6	釧路商業(北海道)
小松市立(石川)	25(11－8、14－14)22	浦和実業学園(埼玉)

▼3回戦

華陵(山口)	43(23－6、20－18)24	大曲農業(秋田)
飛騨高山(岐阜)	22(9－9、13－12)21	白梅学園(東京)
大分鶴崎(大分)	25(13－10、12－10)20	川和(神奈川)
埼玉栄(埼玉)	20(10－5、10－12)17	名古屋経済大市邨(愛知)
洛北(京都)	23(13－15、10－6)21	昭和学院(千葉)
四天王寺(大阪)	32(16－9、16－14)23	陽明(沖縄)
不来方(岩手)	24(10－9、14－11)20	佼成学園女子(東京)
小松市立(石川)	28(17－12、11－9)21	暁(三重)

▼準々決勝

華陵(山口)	30(13－8、17－11)19	飛騨高山(岐阜)
大分鶴崎(大分)	29(10－12、19－12)24	埼玉栄(埼玉)
四天王寺(大阪)	21(14－8、7－9)17	洛北(京都)
小松市立(石川)	26(14－13、12－12)25	不来方(岩手)

▼準決勝

華陵(山口)	36(16－12、20－13)25	大分鶴崎(大分)
四天王寺(大阪)	27(10－9、17－8)17	小松市立(石川)

▼決勝

華陵(山口)	32(17－11、15－10)21	四天王寺(大阪)

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」3月入会・継続会員

【北海道】小島収治【福　島】今野雅益【茨　城】稲吉　繁、田中汀子【群　馬】伊﨑克巳【埼　玉】高田　誠
【千　葉】勝俣裕二、吉田　修【東　京】金賀東子、田村公孝、西岡雅樹、明里慎治、杉山広樹
【神奈川】吉田祐子、杉山義祥、植村　繁、渡邊亜由美、平岡秀雄、鷲塚賢士郎【山　梨】千野恒夫
【静　岡】宮岸健次【愛　知】西村亮治【京　都】川西克頼【大　阪】平田光徳、繁田順子、藪下隆幸
【兵　庫】丸茂康子【高　知】有光正憲

※前号のお詫びと訂正
前号のこのコーナーのタイトルが「10万人会」となっておりましたが、正しくは「20万人会」です。
お詫びして訂正させて頂きます。

【5月・6月の行事予定】

【会議】
5月12日(土) 本部長会議（東京）
6月9日(土) 第1回評議員会・第1回理事会（愛知）

【大会】
5月25日(金)～27日(日)
第30回オリンピック競技大会女子世界最終予選
（フランス、スペイン、デンマーク）

6月8日(金)～10日(日)
ジャパンカップ2012（愛知県・豊田市）
6月16日(土)～22日(金)
第3回アジアビーチゲームズ（中国・海陽）
6月30日(土)～7月13日(金)
第13回男子ジュニアアジア選手権
（カタール・ドーハ）

HAND BALL CONTENTS May.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

（財）日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第五二七号

昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可
平成二十四年四月二十六日印刷　平成二十四年五月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話　代表〇三－三四八一－二三三六
振替　〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人　川上憲太
定価　年間三三〇〇円